

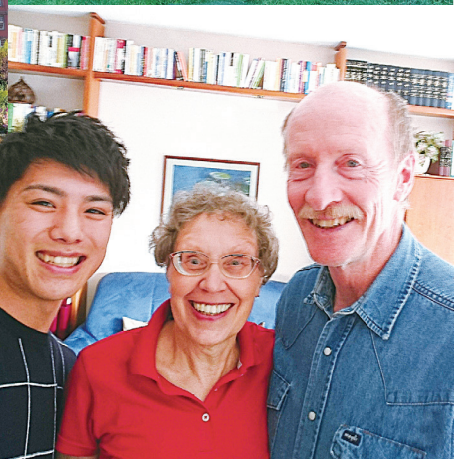
2022

経営学部独自海外留学プログラム Business Studies Abroad Guidebook

BSAの手引き



College of Business Administration
Ritsumeikan University



CONTENTS

1. BSAへようこそ!	4
(1) BSAとは	
(2) プログラムの種類と目的	
(3) BSA派遣先一覧	
(4) 留学の流れ	
(5) 応募から留学までのスケジュール	
2. BSA I について	8
(1) BSA I の特徴	
(2) 応募資格	
(3) 派遣先一覧	
(4) 参加費用・奨学金	
(5) 受講登録	
(6) 事前講義・事後講義	
(7) 単位授与と成績評価	
(8) 各コース紹介・学生体験記	
3. BSA I Plusについて	14
(1) BSA I Plus の特徴	
(2) 応募資格	
(3) 派遣先	
(4) 参加費用・奨学金	
(5) 受講登録	
(6) 事前講義・事後講義	
(7) 単位授与と成績評価	
(8) プログラム紹介・学生体験記	
4. BSA II・IVについて	18
(1) BSA II・IVの特徴	
(2) 応募資格	
(3) 派遣先一覧	
(4) 費用・奨学金	
(5) 学籍と受講登録	
(6) 単位認定と成績評価	
(7) 各派遣先大学紹介・学生体験記	
5. BSA III について	34
(1) BSA III の特徴	
(2) 応募資格・派遣先	
(3) その他	
6. BSAに参加するにあたっての注意事項	35
7. BSAプログラムQ&A ーよくある質問ー	36
8. BSA各プログラム派遣実績	38
9. 留学に向けて	40



(1) BSA とは

経営学部では、グローバルな視点に立って世界を舞台に活躍するビジネス・リーダーを育成するため、経営学部独自留学プログラム Business Studies Abroad (BSA) を実施しています。

BSA には、海外での学びを経験するプログラム (BSA I) や海外の大学 (ビジネススクール) で外国語を使って経営学を学ぶ留学プログラム (BSA I Plus、BSA II・IV)、海外企業でのインターンシップを通じて国際ビジネスの現場を体験するプログラム (BSA III) などがあります。日常的な経営学部での外国語・教養科目・専門科目の学びに加えて、BSA による“Border”を超えた学びを通じて、皆さんは将来「ビジネスを発見し、ビジネスを創造する」人材となれることでしょう。皆さんの積極的な参加を期待しています。

(2) プログラムの種類と目的

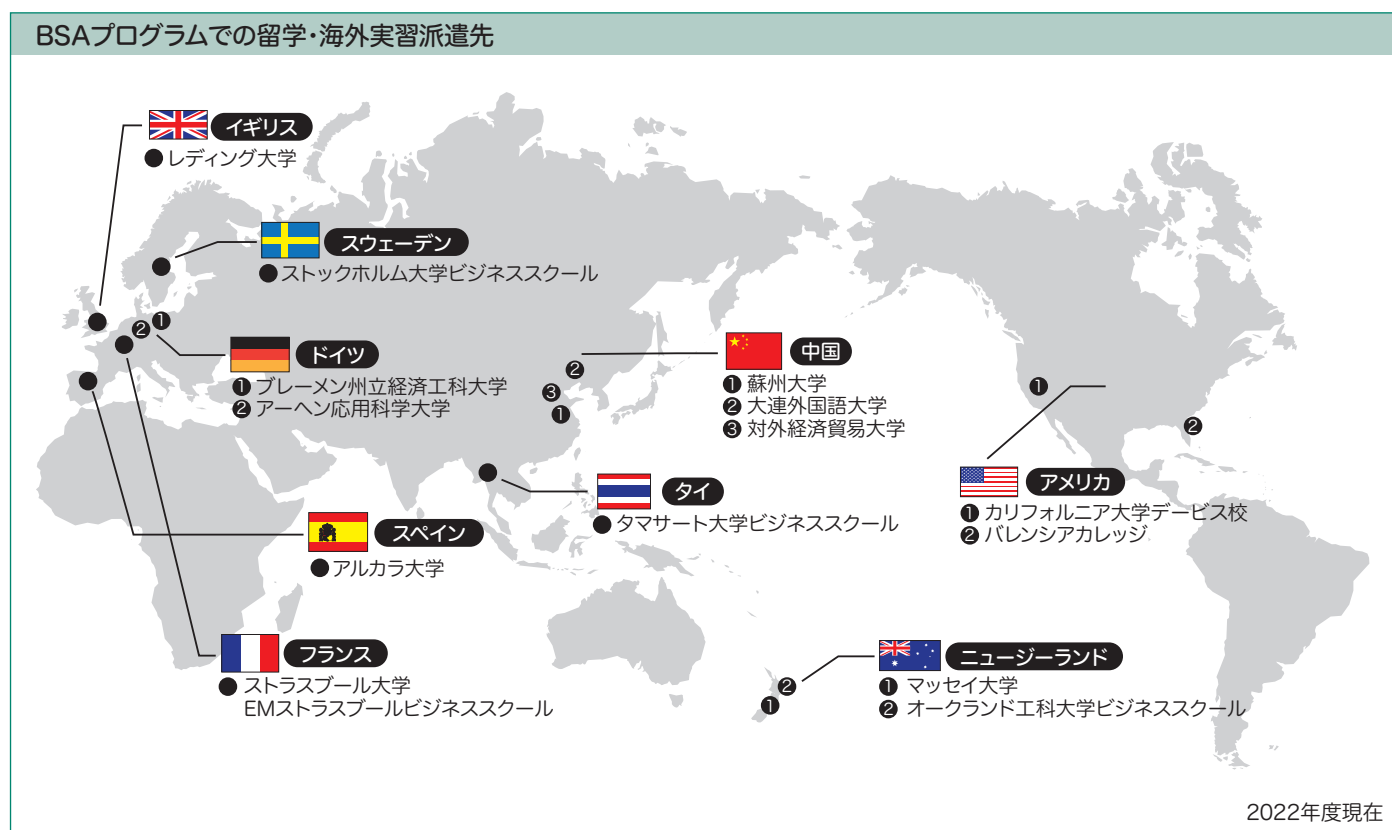
BSA は、内容やレベル別に下記の 4 つのパターンで実施しています。

BSA I (派遣型) (P.8~13)	1 回生から参加できるプログラムで、夏期休暇の約 1 ヶ月間を利用して、外国語の授業、現地企業見学や基礎的な経営・経済学の講義を通じて異文化理解を体験します。
BSA I Plus (派遣型) (P.14~17)	1 回生から参加できるプログラムで、夏期休暇の約 1 ヶ月間を利用して、ビジネス英語やグローバルビジネスについて英語でのディスカッションやケーススタディなどの学習を行い、専門科目を英語で理解できる能力を磨きます。
BSA II・IV (交換/派遣型) (P.18~33)	2 回生から参加できるプログラムで、派遣先大学における 1~3 セメスター間を利用して、ビジネススクールや経営学部を有する大学で、経営学に関する専門科目を他言語で受講しながら、仕事で使える高度なコミュニケーション能力や国際経営の専門知識の習得を目指します。
BSA III (派遣型) (P.34)	2 回生から参加できるプログラムで、アメリカ・フロリダ州のウォルト・ディズニー・ワールドにて実務研修を行い、国際社会で必要とされるビジネス感覚を養います。

派遣型と交換型留学の違いは以下の通りです。

派遣型留学	派遣型留学とは、経営学部と学生派遣協定を締結している海外の大学・機関へ一定の期間留学する制度です。授業料等のプログラム参加費用は、立命館大学の学費とは別に、別途納入する必要があります。その他留学に係る経費も自己負担となります。
交換型留学	交換型留学とは、一般的に「交換留学」と呼ばれ、経営学部と学生交換協定を締結している海外の大学 (ビジネススクール) へ一定の期間留学する制度です。交換留学制度により、立命館大学に授業料を納入すれば、派遣先大学での授業料を納入する必要はありません。ただし、履修科目、登録単位数等によっては有料となる場合があります。その他留学に係る経費は自己負担となります。

(3) BSA派遣先一覧



プログラム名	派遣期間	派遣先
BSA I	約1ヶ月間	・蘇州大学 (中国) ・マッセイ大学 (ニュージーランド)
BSA I Plus	約1ヶ月間	・カリフォルニア大学デービス校 (アメリカ)
BSA III	約6ヶ月間	・バレンシアカレッジおよびウォルト・ディズニー・ワールドでの企業実習 (アメリカ)
BSA II・IV	1セメスター または 2セメスター	・大連外国語大学 (中国) ・対外経済貿易大学 (中国) ・オークランド工科大学ビジネススクール (ニュージーランド) ・タマサート大学ビジネススクール (タイ) ・ストックホルム大学ビジネススクール (スウェーデン) ・ストラスブール大学EMストラスブールビジネススクール (フランス) ・ブレーメン州立経済工科大学 (ドイツ) ・アーヘン応用科学大学 (ドイツ) ・アルカラ大学 (スペイン) ・レディング大学 (イギリス)
BSA IV 1.5年	3セメスター	・対外経済貿易大学 (中国)

(4) 留学の流れ

留学をする際、皆さんには学修面・生活面・各種手続き等においてさまざまな計画と準備が必要になります。下の表を参考に留学の計画と準備を行うようにしてください。

BSA参加までのロードマップ	Step1 留学目標設定	○大学生生活のプランを立てましょう。 ○留学の目標を設定しましょう。
	Step2 BSA応募資格達成	○応募基準の外国語スコアの達成に向けて準備しましょう。 ○応募基準のGPAスコアの達成に向けて準備しましょう。
	Step3 留学情報の収集と相談	○ 派遣者募集ガイダンスに参加しましょう。 ○募集要項を確認して 経営学部事務室 や保護者に 相談 しましょう。
	Step4 参加プログラム選択	○留学先で学びたいことを明確にしましょう。 ○留学先（国・地域）や留学期間を決めましょう。
	Step5 留学前後の履修計画	○留学前後の履修計画を立てましょう。 ○就職活動の日程を確認し、計画を立てましょう。

※申請前には事前のガイダンス出席や経営学部事務室に相談するようにしてください。

(5) 応募から留学までのスケジュール

BSA各プログラムの募集開始時期と留学時期は以下の通りです。

語学要件のあるプログラムに応募する場合は、募集開始時期までに外国語試験の受験計画を立て、語学スコア等の提出が出来るよう準備してください。

また、募集ガイダンスの日程はmanaba+R上で確認することが出来ます。希望するプログラムのガイダンスに参加して、募集要項や留学に関する情報を入手しましょう！

BSAⅢに関し、アメリカ（ディズニー・バレンシア国際カレッジプログラム）は例年2月・8月の派遣となります。※詳細は、募集ガイダンス、募集要項にて案内します。

■ BSA I ・ BSA I Plus (例年)

	例年のスケジュール											
	春学期						秋学期					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
BSA I ・ BSA I Plus 夏期 出発	募集 ガイダンス	各種手続き・ ガイダンス			留学期間		事後講義					
	募集期間 4～5月上旬	事前講義										単位授与

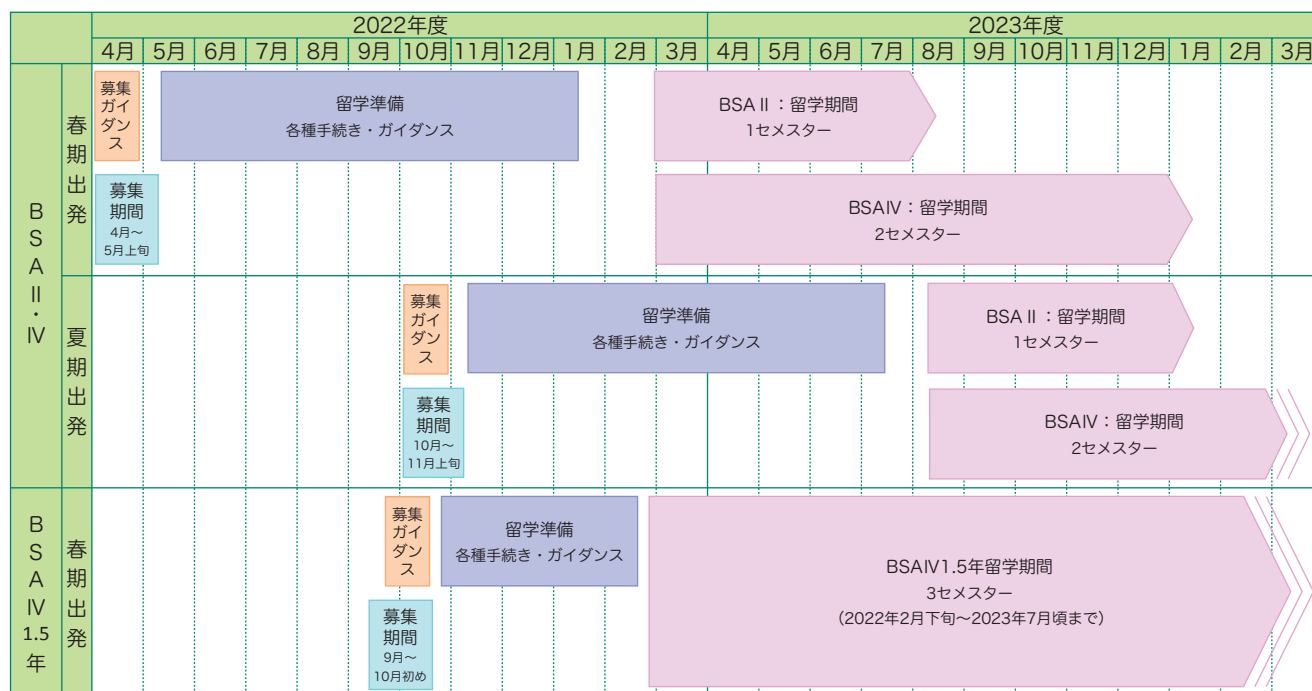
FAQ

Q BSA I (I Plus) に参加したいのですが、応募準備はいつから行えばよいでしょうか。

A BSAの短期留学プログラムでは、派遣の約半年前に募集を行います。BSA I (I Plus) では例年4月に複数回募集ガイダンスを行い、5月上旬頃に応募締切となりますので、それまでにBSAホームページから募集要項、応募用紙をダウンロードして必要書類を準備してください。

Step6 出願・選考	<ul style="list-style-type: none"> ○募集要項を確認し必要書類を提出しましょう。 ○書類選考・面接選考を受けましょう。
Step7 留学の決定	<ul style="list-style-type: none"> ○選考結果を確認しましょう。 ○留学派遣者向けのガイダンスに出席しましょう。
Step8 出発前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○パスポート確認、ビザの申請手続きをしましょう。 ○寮・ホームステイの申込、留学期間の準備をしましょう。
Step9 留学	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や課外活動には積極的に参加しましょう。 ○留学中の生活に慣れるように努力しましょう。
Step10 留学帰国	<ul style="list-style-type: none"> ○留学終了、単位認定、受講登録等の手続きをしましょう。 ○留学生バディとして活躍しましょう。

■ BSA II・BSAIV (2022年度募集分)



FAQ

Q BSA II/IVに応募したいのですが、応募準備はいつから行えばよいでしょうか。

A BSAの中長期留学プログラムでは、派遣の約1年前に募集を行います。ただし、BSAIV1.5年（対外経済貿易大学）プログラムに応募する場合は半年前に募集を行いますので留意してください（上表参照）。志望する派遣先大学の成績基準、語学基準等を確認の上、BSAホームページから募集要項、応募用紙をダウンロードして必要書類を準備してください。

(1) BSA I の特徴

BSA I は外国語のスコアを問わない入門編の海外留学プログラムで、引率教員も同行するため、海外へ行くのが初めてという方にも安心して参加していただけます。なお、引率教員の同行期間は派遣先によって異なります。

(2) 応募資格

- ①経営学部生であること。※大学院生は対象外
- ②2回生以上の応募者は累積もしくは直近セメスターのGPAが2.0以上であること。
- ③本プログラムの趣旨・目的を理解し、事前講義・現地学修・事後講義のすべてに参加可能であること。
- ④派遣先大学での学修および課外活動について、多大な関心と意欲を持っていること。

(3) 派遣先一覧

コース	派遣先大学	所在地	実施期間	派遣人数	宿泊形態
中国	蘇州大学	中国・江蘇省蘇州市	8月初旬～9月初旬 (約1ヶ月間)	20名	宿泊施設
ニュージーランド	マッセイ大学	ニュージーランド・ パーマストンノース	8月初旬～9月初旬 (約1ヶ月間)	30名	ホーム ステイ

(4) 参加費用・奨学金

①参加費用

参加費用は全額個人負担となります。実習費、課外活動費、宿泊費、食費（別途実費負担の場合あり）、渡航費、ビザの取得費用などが含まれます。物価の上昇、為替相場の変動によって納付する参加費用の額が変動します。

■参加費用（経営学部への納付金額）に含まれるもの

- ・航空券代
- ・実習費および課外活動費
- ・教材費
- ・滞在費用（ホームステイまたは宿泊施設）
- ・受入大学の施設使用料（インターネット、図書館など）
- ・空港から現地大学までの往復送迎費用
- ・食費：ニュージーランドコースのみ、朝夕あり
- ・通学バス代：ニュージーランドコースのみ
- ・フィールドワーク費用（※但し、別途必要な場合あり）
- ・ビザ発行のための費用：中国コースのみ

■参加費用に含まれないもの

- ・現地での交通費
- ・クリーニング代、通信費、土産代などの雑費
- ・食費 ニュージーランドコース：昼食
中国コース：全ての食費
- ・海外旅行保険加入費用
(大学が指定する保険に参加者全員加入して頂きます)

■過年度実績

※奨学金支給額は含んでいません。

※参加人数や情勢による費用の変動があるため、確定後のプログラム費用は派遣者決定後（7月初旬頃）に通知します。

コース	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度
中国	実施なし	実施なし	22万5千円	21万6千円	21万7千円	21万3千円	41万1千円
ニュージーランド	実施なし(★)	実施なし	51万2千円	54万4千円	59万8千円	56万円	60万5千円

(★) 2021年度ニュージーランドコースについてはオンラインの別プログラムを実施（費用：およそ7万円）

②奨学金

立命館大学では、留学プログラムに参加する学生に「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」を支給しています。この奨学金は、参加費用の一部を補助することにより、プログラムへの参加・修了を奨励する制度です。なお、奨学金の支給額は今後変更になる可能性がありますので、あくまで参考としてください。

※該当する奨学金はプログラム終了後に学生本人名義の口座に支給されます。

コース	奨学金支給金額	
	プログラム費用40万円以上	プログラム費用50万円以上
中国	8万円	
ニュージーランド		10万円

(5) 受講登録

- ・受講登録は、辞退期間後に経営学部事務室にて一括登録を行います。皆さんが登録する必要はありません。
- ・年間受講登録制限単位数の制限外で登録を行います。
- ・受講登録後の辞退については成績評価がF評価となりますのでご注意ください。

(6) 事前講義・事後講義

事前講義・事後講義共に、プログラムの一部として単位授与の対象となり、担当教員の許可を得ずに事前講義または事後講義を1回でも欠席すると、派遣先大学での留学参加および単位を認めない場合がありますので必ず出席して下さい。

■事前講義

時期 6月～7月
回数 180分×3回程度

■事後講義

時期 10月～12月
回数 ニュージーランドコース：180分×1回程度
中国コース：180分×2回程度

※事前講義・事後講義の日時はコースごとに設定します。

※その他関連ガイダンス（保健センターガイダンス、危機管理ガイダンス、BSA結団式など）にも必ず出席して下さい。

(7) 単位授与と成績評価

- ・成績評価
A+、A、B、C、F評価のいずれかとなります。
- ・評価対象（下記全てが評価対象となります）
事前講義
海外派遣プログラム
研修言語によるレポート
事後講義
海外派遣後のレポート
※海外派遣後のレポートは、事後講義で指導があります。

■このプログラムは下表の科目で単位授与されます。

コース		中国コース		ニュージーランドコース	
国際経営学科	分野	自学科専門科目	教養科目	自学科専門科目	教養科目
	科目名	外国留学特修科目 (国際経営)	外国留学科目	外国留学特修科目 (国際経営)	外国留学科目
	単位数	4単位	2単位	2単位	2単位
	合計	6単位		4単位	
経営学科	分野	他コース専門科目	教養科目	他コース専門科目	教養科目
	科目名	外国留学特修科目	外国留学科目	外国留学特修科目	外国留学科目
	単位数	4単位	2単位	2単位	2単位
	合計	6単位		4単位	

(8) 各コース紹介・学生体験記

中国コース〈蘇州大学〉

プログラムの流れ



中国・江蘇省

■蘇州市の特徴：

2000年以上の歴史を有する歴史都市であり、園林文化が発達し、「東洋のベニス」と呼ばれています。上海まで新幹線で30分。近郊の蘇州工業園区には1,000社以上の日本企業が進出しています。

蘇州大学

■創立：1900年

■学生数：約50,000人

■大学の特徴：

中国国家プロジェクト「211工程」の指定校で江蘇省所轄の重点大学です。103の学部、修士、博士コースが設置されており、現在では日本、フランス、ドイツ、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどの国・地域の100ヶ所にのぼる大学と協定を結んでいます。毎年外国人留学生、中国語進修生（非正規留学生）など約2,000人を受け入れています。

項目		内容	
事前講義	事前講義	<ul style="list-style-type: none"> ・ BSA I 中国の概要説明 ・ 日中の歴史問題を考える ・ 中国について発表（概況、歴史、文化、生活） ・ 日中経済について発表 ・ 訪問企業について理解 ・ 企業研究のテーマを設定し、調査計画書を作成 	
	中国語	発音、日常会話を中心とした簡単な聴・説・写・文法解説	
海外派遣	経営学入門科目	中国概況、中国経済、中国市場動向、日中経済、日中ビジネス	
	フィールドワーク	歴史文化	歴史名所の見学、太極拳、書道、昆劇観賞などを体験する
		中国社会	(1) 消費市場の見学 (2) 上海見学
	現地企業訪問	日系企業 (1) JETRO（日本貿易振興機構）上海センター (2) 日系企業2社 中国企業 (1) 中国系の企業4社 (2) その他関係機関	
	学生交流	派遣先大学外語学院日本語学科学生との交流会 ・ スポーツ、パーティー ・ BSA I 中国報告会	
事後講義	事後講義① (蘇州大学にて)	中国の歴史文化・社会生活に関する報告（班） ・ 班研究の成果報告 中国の経済環境と在中企業の経営戦略（個人） ・ 企業研究の成果報告	
	事後講義② (日本帰国後)	中国のビジネス環境と在中企業の経営戦略（個人）	

※上記内容は、開講年度により変更となる場合があります。

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	中国語	中国語	中国語	中国語	中国語	観光・買い物	観光・買い物
午後	中国経済 (講義)	文化体験 学生交流	中国経済 (講義)	文化体験 学生交流	中国経済 (講義)		

※上記内容は、開講年度により変更となる場合があります。

留学体験記



経営学科 1回生 2019年度派遣者
留学先：蘇州大学
留学期間：約4週間

私がBSA I の中国コースへの参加を決めたきっかけはほんの少しの中国への興味でした。

留学先の蘇州は「水の都」といわれていて、いたるところに川があり、夜景が特にきれいで魅力的な都市でした。日本より人が多く、また建物や道路などいろいろなものの規模が大きく、日本との違いがはっきりと感じられました。蘇州は上海など外国人が多い都市とは違い、あまり外国人がいないためか、店の店員さんであっても英語が通じない人が多く、初めの頃は戸惑うときも沢山ありました。しかし、蘇州大学で受けた中国語の授業を通して少しずつ中国語という言葉に触れ、学んでいくことで、店での注文や買い物の時など自分たちだけでも戸惑うことなくできるようになりました。その中国語の授業では、中国語をただ単に頭に入れるのではなく、じっくり基礎から勉強し、また二人一組での会話練習や早口言葉の練習などのゲーム形式で授業を進めることで、より楽しく、またより深く中国語という言葉学ぶことができました。そして、中国経済に関する授業では、先生が日本語で授業を行い、また中国の経済についての話だけではなく、日本と中国の従来の関係性や日本経済との比較などにも言及されていて、とても理解しやすく、楽しく授業を受けることができました。上海での企業見学においてもここで学んだ内容が役に立ちました。企業見学では、各班につき2社ずつ担当し、全員で合計8社を訪問しました。中国の会社から日系企業まで様々な企業があり、それぞれの企業で実際に工場見学をしたり

製品に直接触れさせていただき、とても有意義な時間を過ごすことができました。こういったカリキュラム以外にも、蘇州大学の学生との交流会や自由時間もあり、たくさんのごことに挑戦してみることができました。現地学生との交流として、私は自由時間のある日などを使い現地の学生さんと映画やショッピングに行きました。映画は中国のもので、すべての内容を理解することはできませんでしたが、初めて行く中国で映画を見るという新しい挑戦は私にとってはとても意味のある体験でした。

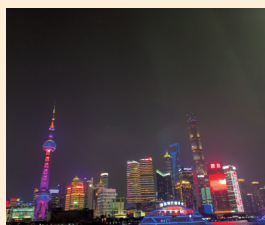
今回の留学を通して、私は何かに挑戦することの大切さや楽しさを知りました。見知らぬ地での様々な活動は、つらいことも沢山ありましたが、それ以上にできなかったことができるようになる喜びの方が大きく感じられました。このことにより、私は今現在迷っていた英語圏への長期留学を決心し、それに向け日々努力しています。初めは少しの興味からの留学でしたが、今となっては私の大学生活ひいてはこれからの人生においてとても大きな意味を持つ留学に変わりました。もし今海外留学をするか悩んでいて、なかなか決心のつかない人がいたら、ぜひ留学することをお勧めしたいです。ただの興味本位であっても構いません。その「興味」がのちにどう変わってくるかはわからないことです。皆さんもぜひ、蘇州で意味ある留学生活を過ごしてみませんか？

※先輩体験記より抜粋

過年度派遣学生からのコメント

- ・わからない言語の国で、積極的に現地人の人と話すことは、とても難しいことでしたが、その分積極性が身につきました。自分にはなかったものを身に付け、帰って来れた気がしています。1ヶ月間という短い期間でしたが、本当に楽しかったです。
- ・中国について様々なことを学ぶことが出来たと思っています。中国についての考え方や価値観などが大きく変わり色々なことに興味を持てるようになりました。とてもいい経験になったと思います。
- ・BSA I は、中国語を学んでいない人でも充実した生活を送ることができるプログラムです。現地の学生は英語も話せるので、英語と中国語を練習することができます！もし、少しでも留学に興味があるのなら参加するべきだと思います！
- ・食べ物の値段は安いし、美味しいし、確実に太るけど、とても楽しい思い出ばかりできました！中国の今を実際にこの目で触れることができたのは非常に貴重な経験になりました。
- ・中国に対しての考えが変わるとも身になる留学プログラムだと思います。夏休みを利用していい経験になること間違いなしです。
- ・1ヶ月間ですが留学経験のない方にとっては自分を成長させる良い機会になると思うのでぜひ参加してみてください！

BSA I 中国コースでは、派遣に関わるブログを作成し、派遣前、派遣中、派遣後の学生の生の声をお届けしています。
興味のある方は一度参考までに読んでみてください！



ニュージーランドコース〈マッセイ大学〉

プログラムの流れ

	項目	内容
事前講義	事前講義	<ul style="list-style-type: none"> ・ BSA I ニュージーランド概要 ・ 英語日常会話 ・ ニュージーランド社会事情に関するグループ報告 ・ 自宅にて英語のオンラインプレースメントテスト (クラス分けのため)
	英語講義	<ul style="list-style-type: none"> ・ レベル別クラス編成に基づきリスニング、リーディング、ディクテーション、ライティング、ディスカッション及び文法の総合的学習 (発音指導、語彙研究含む) ・ ビジネス英語、ビジネスコミュニケーションの基礎
海外派遣	経営学入門科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済学の基礎知識 (需要と供給・価格メカニズムなど) ・ 環境経済学の基礎、ニュージーランドの自然と農林業 ・ ニュージーランド経済 (貿易理論) ・ 日本とニュージーランドのビジネス比較 ・ 異文化理解
	フィールドワーク	歴史文化社会 マオリ文化体験、インドアカート、ファームステイ、ゴルフアクティビティ、オークランド観光など
	学生交流	ポットラックパーティーなど
事後講義	事後講義	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニュージーランドの経済と経営に関する成果の個人報告 ・ 個人報告に基づく英文エッセイの執筆と報告書の作成

※上記内容は、開講年度により変更となる場合があります。

Massey Study Award

BSA I NZプログラムに参加した学生の年間総数が一定人数に達した場合、同年度の春期休暇 (2月上旬) を利用して6週間、マッセイ大学にて Massey Study Awardプログラムに参加する機会が参加者の中から1名に与えられます。なお、参加学生はプログラムの授業料および諸経費が免除されます。

※Massey Study Awardは単位授与型のプログラムではありません。

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	英語の授業					旅行やファームステイなど 友達やホストファミリーと過ごす
午後	Business Study	Field Trip	Business Study	Business Study	Business Study	
放課後	大学で バスケットボール	買い物	友達とカフェ	ホストファミリー や友達と料理	ホストファミリー と出かける	

※上記内容は、開講年度により変更となる場合があります。



ニュージーランド・パーマストンノース

■パーマストンノースの特徴：

首都ウェリントンから約200キロ北に位置し、大学や高等教育機関、政府の研究機関が集まっています。親日家も多く、暮らしやすい街として人気があります。

マッセイ大学

■創立：1927年

■学生数：約40,000人

■大学の特徴：

ニュージーランド最大で学術的にもトップクラスにランクされる教育、研究機関です。レクリエーション、スポーツセンターをはじめとして、図書館、カフェテリアなど大学の施設が非常に充実しています。アジアをはじめ、120以上の国・地域から留学生5,000人以上の受入を行い、大学が保有しているEnglish Language Centerで留学生向けの語学プログラムを展開しています。

留学体験記



国際経営学科 1回生 2019年度派遣者
留学先：マッセイ大学
留学期間：約4週間

2ヶ月間という長い夏休みを利用して今回初めて海外へ1ヶ月間留学しました。留学に行くことが決定してからは不安と期待でいっぱいですが少しでも留学に備えようと思い以前よりも勉強に励みました。

ニュージーランドでの僕のホストファミリーは父、母、息子、娘の四大家族に犬が2匹、猫が2匹いました。息子と娘は毎日忙しかったようでほとんど話すことはありませんでしたが、ホストマザーとファザーと一緒に過ごすことが多かったです。特にホストファザーは活発で、たくさんの友達がいたので一緒に毎週水曜日に彼のサッカーチームと一緒にサッカーをしたり、彼の紹介で地域の大学生チームとバレーボールの試合をしたり、大会に参加することができました。

マッセイ大学での授業のクラスは学生のレベルごとに分けて行われます。授業には日本人だけでなく、中国人留学生や韓国人留学生などほかにも様々な国からの留学生などがいます。もちろん英語で授業を受け、彼らと会話する機会もあります。第二言語で中国語を学んでいるある学生は、英語を使って中国人留学生と中国語を学んでいました。また、プレゼンをしたり、発表をしたりするので瞬時に英語で文章を作る能力を養いました。

週末は、自由だったので、第2・3週に学生だけでウェリントン、ロトルアに旅行しました。また、どちらもバスで6時間ほど移動だったため、疲労がすごかったのを覚え

ています。その疲労を差し引いても、みんなで計画して旅行に行けたのはとてもいい思い出となりました。旅行から帰ったあとにホストファミリーに旅行での出来事をあれやこれやと話すのもとても楽しく充実したものでした。また、最後の土曜日には朝からホストファミリーと庭で朝食を取り、昼から大学へ行きサッカーとラグビーの試合を観戦し、夜には家族揃ってディナーを食べました。最後の週末に家族全員揃ってご飯を食べられたのはとても嬉しかったですが、それに加えてプレゼントも渡されて涙を堪えることが出来ませんでした。僕は今でもホストファザーとメールを続けています。今後、彼らが日本に訪れる時には大阪や京都を案内したいと思います。

たかが1ヶ月間で英語が急激に伸び、ペレペラ喋れるようになることはありませんが、事後講義での約10分間の振り返りのプレゼンを通して思ったのは、留学前まったく英語の話せなかった学生でさえ、自分の知っている英単語を自分の力でどうにか伝えることができていました。留学で得られるのは、英語を積極的に話し、相手に伝えようとする姿勢だと感じました。この留学後、BSA | NZコースを選んだ学生は皆、何かしら自分の目標に向かって熱を入れなおしたように感じます。会計士を目指そうとする学生や第二言語の勉強に取り組んでいる学生、さらなる英語力向上に取り組む学生など様々です。このように留学には高い志を持った仲間が集まります。その一員になれたことを光栄に思います。

※先輩体験記より抜粋

過年度派遣学生からのコメント

- ・長期留学を考えている人にも、少し留学してみたい人にも、良いプログラムだと思いました。
- ・日本にはない大自然がいっぱいで、最高の1ヶ月が過ぎせると思うのでぜひ行ってください！
- ・初めての留学でも楽しく、多くのことを学べたので、少しでも興味が湧いたらぜひ参加してください。
- ・ずっと不安に感じていた留学への思いが、BSA | に行き一瞬にして覆されました！是非とも挑戦してみてください！
- ・勉強することだけを考えなくても1ヶ月外国へ行ってみたい、英語を使った生活をしてみたいという理由だけでも行く価値は必ずあります。行けるなら行ってみるべき！



(1) BSA I Plusの特徴

BSA I Plusは、カリフォルニア大学デービス校のCollege of Business Administrationが実施するThe English for Global Business Ritsumeikan Program at UC-Davisに参加し、ビジネス英語力の向上と多国籍企業で働く際のスキルの向上および革新的な企業の取り組みなどを少人数クラスで学ぶことのできるプログラムです。立命館大学以外の日本の大学をはじめ、世界各国の学生が参加するプログラムであり、プログラムを通じて国際交流や異文化理解も経験できます（各国の参加大学は年度によって異なり、本学のみ参加となる場合もあります）。

(2) 応募資格

- ①経営学部生であること。*大学院生は対象外
- ②応募時に下記の語学基準のいずれかを満たしていること。
語学基準：TOEFL iBT®テスト57点／TOEFL ITP®テスト480点／
TOEIC®L&RテストもしくはTOEIC®L&R IPテスト550点以上
- ③2回生以上の応募者は累積もしくは直近セメスターのGPAが2.5以上であること。
- ④本プログラムの趣旨・目的を理解し、事前講義・現地学修・事後講義のすべてに参加可能であること。
- ⑤派遣先大学での学修および課外活動について、多大な関心と意欲を持っていること。

(3) 派遣先

カリフォルニア大学デービス校（アメリカ カリフォルニア州）

(4) 参加費用・奨学金

①参加費用

参加費用は全額個人負担となります。実習費、課外活動費、宿泊費、食費（別途実費負担の場合あり）、渡航費、ビザの取得費用などが含まれます。物価の上昇、為替相場の変動によって納付する参加費用の額が変動します。

■過年度実績

※奨学金支給額は含んでいません。

※参加人数や情勢による費用の変動があるため、確定後のプログラム費用は派遣者決定後（7月初旬頃）に通知します。

コース	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度
BSA I Plus	実施なし	実施なし	実施なし	76万1千円	80万5千円	70万円

■参加費用（経営学部への納付金額）に含まれるもの

- ・航空券代
- ・実習費および課外活動費
- ・教材費
- ・滞在費用（大学寮、またはホームステイ）
- ・受入大学の施設使用料（インターネット、図書館など）
- ・空港から現地大学までの往復送迎費用
- ・朝、昼、夕の食費
- ・ビザ発行のための費用

■参加費用に含まれないもの

- ・現地での交通費
- ・自転車レンタル費用、クリーニング代、通信費、土産代などの雑費
- ・オプションフィールドトリップにかかる費用（現地申し込み）
- ・海外旅行保険加入費用
（大学が指定する保険に参加者全員加入して頂きます）

②奨学金

立命館大学では、留学プログラムに参加する学生に「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」を支給しています。この奨学金は、参加費用の一部を補助することにより、プログラムへの参加・修了を奨励する制度です。なお、奨学金の支給額は今後変更になる可能性がありますので、あくまで参考としてください。

※該当する奨学金はプログラム終了後に学生本人名義の口座に支給されます。

コース	奨学金支給金額
BSA I Plus	10万円

(5) 受講登録

- ・受講登録は、辞退期間後に経営学部事務室にて一括登録を行います。皆さんが登録する必要はありません。
- ・年間受講登録制限単位数の制限外で登録を行います。
- ・受講登録後の辞退については成績評価がF評価となりますのでご注意ください。

(6) 事前講義・事後講義

事前講義・事後講義共に、プログラムの一部として単位授与の対象となり、担当教員の許可を得ずに事前講義または事後講義を1回でも欠席すると、派遣先大学での留学参加および単位を認めない場合がありますので必ず出席して下さい。

- ・事前講義：90分×4回程度（6月～7月）
- ・事後講義：90分×1回程度（10月～12月）

※その他関連ガイダンス（保健センターガイダンス、危機管理ガイダンス、BSA結団式など）にも必ず出席して下さい。

(7) 単位授与と成績評価

- ・単位授与：【国際経営学科】「外国留学特修科目（国際経営）」（自学科科目）〈6単位〉
【経営学科】「外国留学特修科目」（他学科・他コース科目）〈6単位〉
- ・成績評価：A+、A、B、C、F評価のいずれかとなります。

(8) プログラム紹介・学生体験記



アメリカ・カリフォルニア州

■デービス市の特徴：

デービス市は、アメリカ合衆国カリフォルニア州の中央部南に位置する人口6.5万人の都市です。自転車道が整備されており緑豊かな都市で、また、全米のなかで教育程度の高い都市として知られています。

カリフォルニア大学デービス校

■創立：1905年

■学生数：約33,000人

■大学の特徴：

UC Davisは、カリフォルニア州の州都であるサクラメントと高度技術イノベーションの発祥地であるサンノゼの間に位置し、エネルギー、バイオテック、バイオ医療の基礎から応用分野に及ぶ研究で広く知られている大学です。大学周辺には、新興企業から国際的な大企業まで多くの企業が存在しており、グローバルビジネスの仕組みを学ぶのに非常に適しています。また、アメリカ国内におけるクリーンテクノロジーの4大都市のうちの3都市（サンフランシスコ、サンノゼ/シリコンバレー、サクラメント）に位置し、起業家精神の中心となっています。

プログラム構成

科目	
1	Intercultural Business Research Project
	興味のあるトピックを選び、より深くグローバルビジネスについて調査する。 ・オーラルまたはビジュアルプレゼンテーション（ポスター形式もしくはパワーポイント形式）の効果的な方法について学ぶ ・コミュニケーション及びインタビュースキルの向上 ・データの調査、収集、整理 ・英語でのビジネスプレゼンテーションスキルの向上 ・協調性とリーダーシップのスキル強化
2	Business Communication Skills
	以下のような実践的なビジネスコミュニケーションを通して会話及び発音スキルを向上させる ・電話対応、打合わせ手順や専門用語の理解 ・ビジネスメールの書き方を学ぶ ・意見発表と意見に対する回答 ・適切な言葉の選び方、態度、外交的言語の使用
3	Hot Topics in Global Business
	・グローバルビジネスをテーマとする記事、レクチャー、視聴覚教材を用いて論理的かつ批評的な考えを養う ・異文化マネジメントへの理解を深める ・革新への今日のアプローチや未来のビジネス事情を変えるサステナビリティや起業について学ぶ
4	Case Studies in Global Business
	・一流のビジネススクールでのケーススタディのメソッドを学ぶ ・ビジネスレポートを分析する力をつける ・経営判断を批判的に評価する ・推奨される行動指針を説明する ・実用的な学習の刺激となるロールプレイを行う

※上記内容は、開講年度により変更となる場合があります。



	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	09:00-09:50 10:00-10:50 11:00-11:50 12:10-13:00	Intercultural Business Research Project Business Communication Skills Hot Topics in Global Business Case Study in Global Business				デービス散策 ロサンゼルス旅行 サンフランシスコ観光 ヨセミテ旅行 アウトレットで買物など
午後	ダウントウンで 買い物	Special Guest Lecture	ファーマーズ マーケット	Site Visit	アクティビティ	

※上記内容は、開講年度により変更となる場合があります。

留学体験記



経営学科 2回生 2018年度派遣者
留学先：カリフォルニア大学デービス校
留学期間：約4週間

私が留学するにあたって、このプログラムが良いと思った事は2つあります。1つ目は、夏休みを利用した1ヶ月という短期留学であった事です。夏休み中の留学なので授業に支障がないうえに、この1ヶ月の留学で単位も得る事ができました。2つ目は、寮での生活ができた事です。留学ではホームステイをするプログラムが多いですが、私はホームステイだとホストファミリーに気を遣って生活してしまいそうだなと考えていました。寮では自分で洗濯をして食事は全て食堂ですませていたので、比較的自分の好きなように生活できました。これら2つの特徴がこのプログラムを選んだ決め手でした。

授業は50分間で午前中に4科目あり、それが月曜から金曜までありました。その中で一番印象に残っている授業は“Intercultural Research”という授業で、自分で設定したテーマについて調査、収集、整理したのちにポスター形式のプレゼンテーションで意見を述べるという内容でした。インタビューをする際に知らない人に英語で話しかける事は私にとって勇気のいる事でしたが、「日本では出来なかった事を一歩だけでも踏み出して頑張ろう」と自分を勇気づけてなんとかインタビューを終えることができました。デービスの人達はあたたかい人達ばかりで、つたない英語しか話せない私にも親切に接してくださり自分に自信を持つことができました。インタビューで得たデータから自分のテーマを仕上げ、シンポジウムでは他のプログラムの人達と一緒にポスターを用いて各々の調査結果をシェア、議論しました。ほかの授業でも様々な人達との出会いがあり、

日々刺激されながら自分を成長させる事ができました。色々な国、年代のクラスメイトと交流しながら、様々な国の文化に触れることもできました。また、週に1度、サイトビジットとして企業訪問を行いました。訪問先で聞かせていただいたお話は、実際の現場を生で見学しながら体験でき貴重な経験となりました。

週末には勉強から一旦離れてアクティブに行動し、様々な場所を訪れました。サンフランシスコやロサンゼルスなどデービスから少し離れた都市へ行くと、またその場所特有の雰囲気や人柄に触れる事ができ、アメリカの文化について深く知る事ができたと思います。この様に週末を楽しむ為に、平日は授業をこなし、宿題を週末に持ち込まない様に切り替えを意識して生活していました。

この1ヶ月を通して得られたものは数えきれないほどあると思いますが、私が1番感じている成長は「価値観が豊かになった」事だと思います。デービスでの生活が始まってから、沢山ある日本との違いを様々な経験を通して新鮮に感じる事ができました。それと同時に日本とデービスを比較する事で、客観的な視点で物事を考えられる力がついた様に思います。アメリカに留学をして異国について学びながら、一方で日本について見つめなおす事ができました。得られるものは人それぞれ違うと思いますが、この留学を通してきっと大きく成長できると思います。

※先輩体験記より抜粋

過年度派遣学生からのコメント

- ・今まで学んだ経営学の知識を活かせる授業ばかりなので、非常に充実した1ヶ月間を過ごすことができると思います。長期休暇を利用して留学を経験したいと考えている方は、ぜひ参加してみてください！
- ・大学での授業に支障をきたすことなく夏休みを利用して行くことができる留学プログラムです。英語力だけでなくグローバルなビジネスを学ぶことができます。海外の文化に触れて、日本ではできない貴重な経験をしてみませんか。
- ・平日は授業が午後1時には終わり、宿題さえ終わらせればフリータイムなので、想像していたよりも自由に過ごせました。アメリカの日常も感じる事ができ満足しています。半年間や1年間の留学に行く勇気はないけど留学をしてみたいという人にはお勧めです。



(1) BSA II・IVの特徴

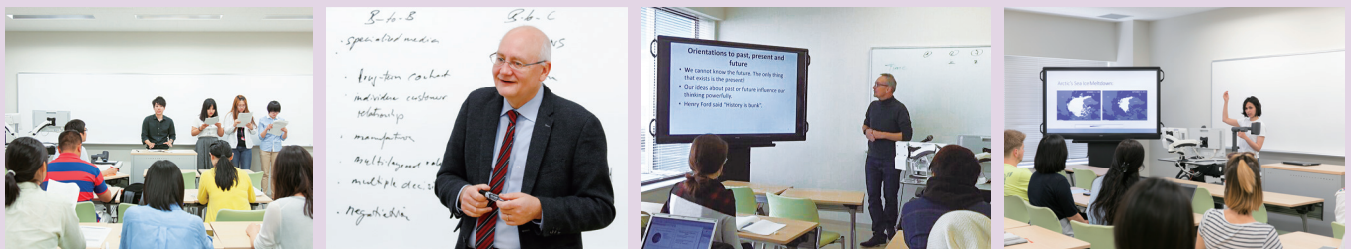
BSA II およびIVは、2回生以降に参加できる海外留学プログラムです。1～3セメスターの期間、ビジネススクールや経営学部を有する海外の大学で経営学に関する専門科目を多言語で受講し、ビジネスで使える高度なコミュニケーション能力や国際経営の専門知識の修得を目指します。

共通	<ul style="list-style-type: none"> 経営系の大学やビジネススクールで各自の経営学の専門分野に応じた正規留学科目を受講することができます。 原則として、中国の大学では中国語、それ以外の派遣先大学では英語で開講される授業を受講します。派遣先大学によってはその派遣先国の言語で開講される授業も受講できます。また、各自の語学レベルによっても派遣先国の言語で開講される授業の受講が許可される場合があります。 	BSA II	1セメスターの交換型留学
		BSA IV	2セメスター、3セメスターの交換型／派遣型留学

(2) 応募資格

- ①原則として応募時に経営学部1～3回生であること。
※大学院生は対象外。BSAⅠ1.5年プログラムへの応募者は1回生であることが望ましい。
※応募できる回生に関する規定については、別途、募集要項を参照のこと。
※特に3回生以上の応募については事前に必ず経営学部事務室国際担当に相談の上、応募準備をすすめること。
- ②累積もしくは直近セメスターのGPAが2.75～3.0 以上であること。
- ③原則として、応募時に語学要件を満たしていること。
※詳細は「(3) 派遣先一覧」の語学基準欄を参照してください。
- ④本プログラムの趣旨・目的を理解し、留学前、留学後に行われるガイダンスやオリエンテーション、現地での学修のすべてに参加可能であること。
- ⑤派遣先の留学プログラムについて、多大な関心と意欲を持っていること。

経営学部では、長期留学予定学生が留学派遣先大学でより充実した学習ができるよう、留学前もしくは留学後の教育として、英語および中国語による「プロジェクト研究 (GBLプログラム型)」を開講しています。GBLとはGlobal Business Leadershipの略称で、「プロジェクト研究 (GBLプログラム型)」とはグローバルな視点に立って世界を舞台に活躍するビジネス・リーダーの育成を目標に設計されている科目です。BSAプログラム及び全学留学プログラムにて海外に留学に行く学生は、プロジェクト研究 (GBLプログラム型) をぜひ受講してください。



FAQ

Q BSAと全学募集プログラム（国際教育センター主管の留学プログラム）はどう違いますか。

A まずプログラムの運営について、BSAは経営学部によって運営されています。全学募集プログラムは、国際教育センターによって運営されています。また、BSAのプログラムではビジネススクールや経営学部を有する海外の大学に留学し、経営専門知識を修得することに重点が置かれている点が特徴です。

Q 派遣先大学で履修するコースや科目を知りたいのですが、どのように確認出来ますか。

A 経営学部の協定校の多くは、留学生のためのホームページを開設しています。ホームページ上で、留学生が受講出来るコースを参照してみてください。また、経営学部事務室では、過年度派遣学生が受講していた科目リストを管理しています。留学の相談にあたって、ご参考にいただくことも可能です。

(3) 派遣先一覧

国	派遣先大学名 (所在地)	実施時期(※1)		派遣 人数 (※2)	GPA	語学基準 (※3)	
		II	IV				
中国	大連外国語大学 (大連)		<夏出発> 8月下旬～ 翌年7月中旬	3名 程度	2.75 以上	派遣までに新HSK4級(180点～194点) または中国語検定3級を取得することが 望ましい	
	対外経済貿易大学 (北京)	<夏出発> 8月下旬～ 翌年1月中旬	<春出発> 2月下旬～ 翌年1月中旬	2名	2.75 以上	<中国語での申請> II:【応募時必須】応募時に新HSK5級 (195点～209点)以上 IV:派遣までに新HSK4級(180点～ 194点)以上を取得することが望ましい	(※4)
		<春出発> 2月下旬～ 7月中旬	<春出発1.5年> 2月下旬～ 翌年7月中旬	1名	2.75 以上	<中国語での申請> 派遣までに新HSK4級(180点～194点) 以上を取得することが望ましい <英語での申請> 応募時にTOEFL iBT®テスト72点以上 またはIELTS 5.5以上	
ニュージー ランド	オークランド工科大学 ビジネススクール (オークランド)	<春出発> 2月中旬～ 6月下旬	<春出発> 2月中旬～ 11月中旬	2名 程度	3.0 以上	TOEFL iBT®テスト80点以上/ またはIELTS 6.0以上 (各項目5.5以上)	
タイ	タマサート大学 ビジネススクール (バンコク)	<夏出発> 8月下旬～ 12月下旬	<夏出発> 8月下旬～ 翌年4月下旬	3名 程度	3.0 以上	TOEFL iBT®テスト79点以上/ またはIELTS 6.0以上	
スウェーデン	ストックホルム大学 ビジネススクール (ストックホルム)	<夏出発> 8月中旬～ 翌年1月下旬	<夏出発> 8月中旬～ 翌年6月上旬	3名 程度	2.75 以上	TOEFL iBT®テスト79点以上/ またはIELTS 6.0以上	
フランス	ストラスブール大学 EMストラスブール ビジネススクール (ストラスブール)	<夏出発> 8月下旬～ 12月下旬	<夏出発> 8月下旬～ 翌年4月下旬	3名 程度	2.75 以上	TOEFL iBT®テスト72点以上/ またはIELTS 5.5以上	
ドイツ	ブレーメン州立 経済工科大学 (ブレーメン)	<夏出発> 9月下旬～ 翌年2月下旬	<夏出発> 9月下旬～ 翌年7月中旬	3名 程度	3.0 以上	TOEFL iBT®テスト71点以上/ またはIELTS 5.5以上	
	アーヘン応用科学大学 (アーヘン)	<夏出発> 9月上旬～ 翌年2月下旬 夏期集中ドイツ語コース含む <春出発> 3月上旬～7月 春期集中ドイツ語コース含む	<夏出発> 9月上旬～ 翌年7月中旬 夏期集中ドイツ語コース含む	3名 程度	2.75 以上	IELTS 5.5以上	
スペイン	アルカラ大学 (マドリッド)	<夏出発> 8月中旬～ 翌年1月下旬	<夏出発> 8月中旬～ 翌年6月上旬	3名 程度	2.75 以上	TOEFL iBT®テスト72点以上/ またはIELTS 5.5以上	
【派遣型留学】 イギリス	レディング大学 (レディング)	II なし	<夏出発> 8月上旬～ 翌年3月下旬 夏期集中英語コース含む (★)	10名 程度	2.75 以上	IELTS for UKVI 5.0以上 (2016年度より、イギリスビザ取得に おいてIELTS for UKVI Academicの 受験が必須となりました)	

(※1) 派遣時期は若干ずれることがあります。

(※2) BSAIVで学生を派遣する際の派遣人数を記載しています。

(※3) 語学基準は変更になる場合があります。申し込み前に必ず募集要項を確認してください。ただし母国語を中国語とする方は中国語基準での応募申請はできません。

(※4) 中国・対外経済貿易大学に申請される場合は、2022年度派遣より英語基準でも中国語基準でも申請可能となります。

なお、英語開講の専門科目を受講希望の場合は、渡航までにTOEFL iBT®テスト80点またはIELTS 6.0以上程度の取得および語学力の向上を目指してください。

(★) 立命館大学では秋学期(1セメスター)のみ学籍状態が留学になります。(※3月31日までに留学終了届が提出・受理された場合で、かつ卒業該当最終学期での留学でない場合のみ。)

FAQ

Q 自分の語学力で海外の大学の講義についていけるか不安ですが、大丈夫でしょうか。

A 出願要件をクリアしているのであれば、語学力について必要以上に心配することはありません。ただし、留学開始直後は、慣れない授業スタイルや大量の課題に苦しむ学生が多いのも事実です。その際には、積極的に留学先の先生や職員と相談することをお勧めします。受身にならず自ら解決策を探そうとすることが大切です。試行錯誤して努力しているうちに自分に合う方法が見つかるはずですよ。また英語以外の言語を公用語とする大学への留学を希望する場合は英語だけでなく、派遣までに現地公用語の学修にもぜひチャレンジしてください。派遣先の生活環境によっては公用語を一定程度修得しておいた方が、生活面での心配が軽減されます。

(4) 費用・奨学金

①費用

交換留学の場合には、学費は本学と派遣先大学との間で相殺となるため、留学先大学で学費を納入する必要はありません。

■主な費用

- ・ 包括海外旅行保険費用（大学指定の保険に参加者全員加入して頂きます）
- ・ ビザ取得のためにかかる費用
- ・ 渡航費（航空券）
- ・ 現地出入国税、空港税、航空保険料
- ・ 宿泊費（寮・アパート）および申請費
- ・ 現地での交通費
- ・ 教材費等
- ・ クリーニング代、通信費、土産代などの雑費
- ・ 娯楽費
- ・ 医療費（特に現地での歯の治療費用は日本の数十倍になる場合があります）
- ・ レディング大学のみ、授業料も個人負担となります

■注意点

- ・ 寮費、教材費等は派遣先大学で徴収されます。（レディング大学のみ、授業料の徴収も有り）
- ・ 派遣先大学の事情により、学生寮に必ずしも入れるとは限りません。その場合は速やかに経営学部事務室までご相談ください。
- ・ 費用は物価の上昇、為替相場や情勢によって変動しますので、あくまでも参考としてください。

■主な費用の過年度実績値 ※個人差があります。※生活費に娯楽費は含みません。

派遣先大学	費用例（過年度参考）		
	年度	期間	派遣者実績
大連外国語大学	2018	IV	寮費：約188,000円 教材費：約7,800円 生活費：約320,000円
対外経済貿易大学	2019	1.5	寮費：約576,000円 教材費：約1,920円 生活費：約401,600円 ※実質IV
オークランド工科大学 ビジネススクール	2018	IV	寮費：約900,000円 生活費：約400,000円
タマサート大学 ビジネススクール	2016	II	寮費：約50,000パーツ 教材費：約1,000パーツ 生活費：約90,000パーツ
ストックホルム大学 ビジネススクール	2018	IV	寮費：約40,000クローナ 教材費：約500クローナ 生活費：約33,000クローナ
ストラスブール大学 EMストラスブール ビジネススクール	2019	II	寮費：約2,000ユーロ 生活費：約1,500ユーロ 保険料：約200ユーロ
ブレーメン州立 経済工科大学	2017	II	寮費：約1,750ユーロ 生活費：約3,000ユーロ 保険料：約450ユーロ
アーヘン応用科学大学	2018	IV	寮費：約2,400ユーロ 生活費：約5,000ユーロ
レディング大学 ※レディング大学のコースについて IFLP：International Foundation Language Course 8月から英語の集中講座を含む IELTS UKVI 5.0の学生は必須 IFP：International Foundation Course 英語の集中講座を含まない9月末からの ファウンデーションコース	2018	IV	■ IFLP Course（8月～3月） 授業料：約12,835ポンド ■ IFP Course（9月～3月） 授業料：約11,260ポンド 寮費：約5,200ポンド 教材料：約100ポンド 生活費：約2,000ポンド ※寮費、教材費、生活費は8月～3月まで滞在した場合の費用例です

②奨学金

■立命館大学海外留学チャレンジ奨学金

原則として派遣者全員に「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」が支給されます。なお、奨学金は派遣中に学生本人名義の口座に支給されます。

プログラム名	派遣先大学	派遣期間	奨学金金額
BSA II	大連外国語大学	1 Semester	15万円
	対外経済貿易大学		
	オークランド工科大学ビジネススクール		25万円
	タマサート大学ビジネススクール		
	ストックホルム大学ビジネススクール		
	ストラスブール大学 EMストラスブールビジネススクール		
	ブレーメン州立経済工科大学		
	アーヘン応用科学大学		
	アルカラ大学		
BSAIV	大連外国語大学	2 Semester	20万円
	対外経済貿易大学		
	オークランド工科大学ビジネススクール		30万円
	タマサート大学ビジネススクール		
	ストックホルム大学ビジネススクール		
	ストラスブール大学 EMストラスブールビジネススクール		
	ブレーメン州立経済工科大学		
	アーヘン応用科学大学		
	アルカラ大学		
BSAIV 【派遣型留学】	レディング大学	(★)	30万円
BSAIV1.5年	対外経済貿易大学	3 Semester	35万円 (※ただし1年経過後に別途審査あり)

※奨学金の金額は今後変更となる場合があります。

(★)立命館大学では秋学期(1 Semester)のみ学籍状態が「留学」になります。(※3月31日までに留学終了届が提出・受理された場合で、かつ卒業該当最終学期での留学でない場合のみ。)

■立命館大学海外留学サポート奨学金

経済上の事由により、プログラムへの参加または参加継続が困難であることが見込まれる者に対し、参加費用の一部を補助することによって、参加の支援を行うことを目的とする制度です。

海外留学サポート奨学金には、「予約採用型」「家計急変型」の2つのタイプがあり、いずれも要項に定められた家計基準を満たす場合に、奨学金選考の対象となります。支給額や申請・選考方法などの詳細は、以下を確認してください。

外国留学プログラムHP (奨学金ページ)

<https://secure.ritsumeai.ac.jp/studyabroad/planning/scholarship/>



■JASSO (独立行政法人日本学生支援機構) 海外留学支援制度

立命館大学から支給される奨学金とは別に、JASSO (独立行政法人日本学生支援機構) が所管する奨学金に採択された派遣国がある場合は、別途受給要件を告知した上で選考を行います。

※奨学金によっては併給できないものがあります。事前に経営学部事務室またはOIC国際教育センターに確認を行ってください。

(5) 学籍と受講登録

①学籍

BSA II・IVにて留学する際に、立命館大学での学籍が「在学」から「留学」に変更になる期間は以下の通りです。

派遣先大学	出発	学籍上の留学期間		
		BSA II	BSAIV	BSAIV1.5年
大連外国語大学	夏	秋学期	秋学期～翌年度春学期	—
	春	春学期	春学期～秋学期	
対外経済貿易大学	夏	秋学期	秋学期～翌年度春学期	—
	春	春学期	春学期～秋学期	春学期～翌年度春学期
オークランド工科大学ビジネススクール	春	春学期	春学期～秋学期	—
タマサート大学ビジネススクール	夏	秋学期	秋学期～翌年度春学期	—
ストックホルム大学ビジネススクール	夏	秋学期	秋学期～翌年度春学期	—
ストラスブール大学EMストラスブールビジネススクール	夏	秋学期	秋学期～翌年度春学期（※）	—
ブレーメン州立経済工科大学	夏	秋学期	秋学期～翌年度春学期	—
アーヘン応用科学大学	夏	秋学期	秋学期～翌年度春学期	—
	春	春学期	—	
アルカラ大学	夏	秋学期	秋学期～翌年度春学期	—
レディング大学	夏	—	秋学期（★）	—

※BSAIV/ストラスブール大学EMストラスブールビジネススクール派遣者には下記B.の受講登録パターンが適用されます。

（★）立命館大学では秋学期（1セメスター）のみ学籍状態が「留学」になります。（※3月31日までに留学終了届が提出・受理された場合で、かつ卒業該当最終学期での留学でない場合のみ。）

②受講登録

■夏出発プログラムで留学する学生は、以下の点に留意してください。

A.【春学期授業開始日までに帰国し、留学終了届が受理された派遣者】

在学生と同じ日程で受講登録をしてください。

B.【4月30日以前に帰国し、留学終了届が受理された派遣者】

帰国日が立命館大学春学期授業開始日を過ぎる場合は、受講可能な科目に制限があるため、注意してください。

※帰国日が5月1日以降となる場合、春学期科目・通年科目を受講することはできません。

→春学期科目・通年科目のうち、教養科目・外国語科目の受講は不可。専門科目のうち一定の科目を除き受講可能。受講可能科目の詳細及び登録方法は、登録時期に別途案内があります。また、欠席した授業については、適宜課題等が提示されます（予定）。

C.【5月1日以降に帰国し、留学終了届が受理された派遣者】

5月1日以降に帰国した場合は秋学期より復学するので、秋学期以降に受講が可能となります。

※ただし、夏季集中科目およびクォーター的運用をしている科目等については、「留学終了届」が当該科目の授業開始日までに受理され、実質的に受講可能な場合は受講が認められます。

■注意点

- ・時間割及び「履修・登録の手引き」は、manaba+Rに掲載されます。必ず各自で確認をし、必要な手続きを踏んでください。
- ・登録方法、期間、締切り時間は全て日本で登録する学生と同じ条件であり、かつ日本時間にて管理されます。
- ・上記記載の「帰国」とは日本帰国・入国後にOIC学びステーションに学生本人が来室し、「留学終了届」を提出後に受理された状態のことを指しています。

(6) 単位認定と成績評価

BSA II・IVの留学先で修得した単位の認定は、本人による単位認定申請を受け、学部の履修規程等に従い、派遣先大学で受講した科目の内容・レベル、授業時間数等に基づき行われます。単位認定数や単位認定分野・科目については派遣先大学や、各自の履修状況により異なりますので、ご注意ください。

- ・認定された単位の成績評価欄には「T」が記載されます。
- ・認定された場合のみ60単位を上限として本学の単位として認定されます。
※大学コンソーシアム等で受講科目の単位認定がすでに行われている場合は、その認定済み単位数を前述した上限単位数から差し引いた単位数までしか新たに認定されませんのでご了承ください。
- ・単位認定に関わる申請書類および派遣先大学の学年暦と成績証明書、受講した科目のシラバス（原文および和訳）を各自準備してください。

留学前に学部事務室で履修科目や単位認定について相談の上、留学中と帰国後の学修計画を立てておく必要があります。

■過年度派遣学生の単位認定実績（参考）

派遣先大学	BSA II	BSAIV	BSAIV1.5年
大連外国語大学	10～25単位	40～50単位	—
対外経済貿易大学	10～20単位	40～50単位	40～50単位
オークランド工科大学ビジネススクール	実績なし	15～20単位	—
タマサート大学ビジネススクール	10～15単位	実績なし	—
ストックホルム大学ビジネススクール	5～10単位	6～15単位	—
ストラスブール大学 EMストラスブールビジネススクール	5～10単位	10～20単位	—
ブレーメン州立経済工科大学	8～15単位	15～35単位	—
アーヘン応用科学大学	5～10単位	10～20単位	—
アルカラ大学	実績なし	実績なし	—
レディング大学	—	20～25単位	—

※単位認定数や単位認定分野・科目については、派遣先大学や各自の履修状況により異なりますので、ご注意ください。



FAQ

Q 1セメスター以上の留学をする場合、専門演習（ゼミ）の履修は可能ですか。

A BSA（正規留学プログラム）に参加する場合、留学期間中の「専門演習Ⅰ～Ⅲ」の受講は免除されます。留学帰国後は、原則として留学前と同じクラスに所属し継続履修をする事ができます。帰国後に所定の申請書に必要事項を記入の上、OIC学びステーションへ提出してください。

Q 留学中のアルバイトは認められますか。

A 留学先で学業に専念していただくため、BSAプログラムでは留学中のアルバイトは認めていません。

(7) 各派遣先大学紹介・学生体験記

大連外国語大学



国・都市：中国・大連市

中国の東海岸に位置し、中国東北遼東半島の最南端にあります。緯度は日本の仙台とほぼ同じです。中国の重要な港、貿易、工業、観光の都市です。

■創立：1964年

■学生数：約15,000人

■大学の特徴：

- ・中国東北地方唯一の外国語大学。漢学院、日本語学院などがあり、本校、分校、研究所など20ヶ所以上の施設を有しています。
- ・漢学院は中国で最も早く中国語言語本科を設けた学校の一つであり、設立20年で30ヶ国から長期留学生約10,000人、短期留学生約4,000人を受け入れています。
- ・漢学院には、中国文化と国際経済貿易の二つのコースが設けられており、中国文化コースで短期間に中国語のレベルを向上させることも可能です。
- ・2013年5月より大連外国語学院から大連外国語大学へ改名されました。



過年度派遣学生体験記
(2019年度夏期 BSA II・男性)

「留学中に困ることなんてないだろう」そう思って出発した私ですが、約4ヶ月を振り返ってみると銀行開設、入学手続き、日々の学習面など、様々な人の助けをもらい無事に留学生活を終えることができました。留学は今まで2回経験したことがあったので、カルチャーショックを受けるということは全くなかったのですが、過去の留学とは異なり日本語でサポートしてくれる先生がいなかったため、自力で解決する必要がありました。初めの1週間で生活に必要なものを揃え、授業が始まりました。私のクラスだけ偶然日本人が一人だけだったのですが、そのおかげで私の課題であったスピーキング能力とリスニング能力を向上させることができました。日本で中国語を学習していた時もリスニングとスピーキングだけは授業内では微々たる向上でしたが留学中の普段の生活を通じて習得することができました。もし、クラスに日本人がたくさんいたら成果は少なかったに違いないと思います。

私は留学するまで大連はとても小さな街で、寒い、親日という印象しか持っていませんでした。実際行ってみると、方言が強い面や、比較的親切な中国人の方が多いという印象を受けました。また、ロシアと韓国に近い位置に存在するため、ロシア人と韓国人の留学生の割合が今までの留学の時よりも多かったです。メディアでは日韓関係がよくないといった報道がされているけれど留学生はそのような感情を一切持っておらず、たくさんの韓国人と親しくなり、1月の末に韓国で会う計画もできました。今までは韓国に行きたいと思ったこともなかったけど、このような関係を築くことができたのは大連で留学をしたことによるものだと思っています。

私は3回生の秋学期を利用して留学をしました。大学生活最後のチャンスという反面、正直就活や現地での生活に多少の不安を抱えて、留学をするか非常に迷いました。留学書類締め切りまで迷っていたのが最近のように鮮明に覚えています。しかし、最終的に留学しようという決断に至ったのは「行かずに後悔より行って後悔しよう」という覚悟ができたからです。その結果現地でも思い切って自分のしたいこと、学びたいことを一杯することができ、本当に行ってよかったです。行っていなかったら確実に後悔していたと思います。私は大連外国語大学で過ごした約4ヶ月半かけがえのない思い出、友達、学習をすることができました。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
1限目	精読	精読	精読	精読	聴力	休憩 観光 外食	休憩 観光 外食
2限目	閲読	聴力	口語	閲読	口語		
3限目	語法	自習	自習	語法	太極拳		
4限目		自習	自習				

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。



国・都市：中国・北京市

北京市の特徴：

中国の首都、政治・文化の中心地である。
故宮、天壇など多数の世界遺産がある。

■創立：1951年

■学生数：約18,000人

■大学の特徴：

- ・北京市北東の市街区に位置し、近隣には中日友好病院や、日本でも馴染みの深いスーパー等の便利な施設があります。
- ・国際経済貿易の専門家養成の高等教育機関として、国家「211」プロジェクトが初めて承認した重点大学で経済、金融、管理等の分野において一流の水準を有する大学です。
- ・中国で最も早く国際学術交流を展開した大学であり、現在、世界の30ヶ国以上の国や地域にある100以上の大学や研究機構と協力交流関係を結んでいます。

対外経済貿易大学



過年度派遣学生体験記
(2019年度春期 BSAIV1.5年・女性)

1年半のプログラムだったので、本来ならあと半年北京で勉強するはずでしたが、新型コロナウイルスの影響で留学が中止になりました。

私は中国に行きながら中国語も英語も全く得意ではなく、中国語に関しては簡単な会話ですら答えられないような状態でした。

不安しかありませんでしたが、立命館に交換留学していた方とバディが空港まで迎えに来てくださり、大学での手続きも手伝っていただきました。

その後もたくさんの方に助けて頂きながら1年間を無事に過ごすことが出来ました。

正直、1年半のプログラムに申し込むことは私にとってとても大きな決断で、本当に悩みました。

友達はできるのか、食事や環境は合うのか、授業にはついていけるかなど、挙げるとキリがありませんでしたが、実際に行くことと今までの心配が嘘だったかのように楽しい毎日がありました。

そして世界と視野が広がります。

留学は楽しいことばかりでないことも事実ですが、多くのことを吸収出来たり、刺激を素直に受けて変われたり、自分の短所と向き合えるのは若いからこそ出来ることであると実感しました。

大学生は人生最後の夏休みと言われているため、その4年間をどのように過ごすのかとても悩むと思います。

今は、行ってから後悔したらどうしよう、1年半は長すぎるかも心配するかもしれませんが、私は今振り返ってみると、こんなに濃厚で楽しく、語学だけでなく様々なことを学び、成長できたこの1年は、今までになく、間違いなくこれから歩いていく中で自信に繋がっているの、心から留学に行けて良かったと思っています。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	総合/聴力	総合/読解	総合/聴力	総合/読解	読解/総合	観光など
午後	自習	自習	自習	自習	自習	
夜		買い物		買い物		

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

※派遣学生の語学レベルによっては、英語開講または中国語開講の専門科目を履修することが出来ます。

オークランド工科大学 ビジネススクール



国・都市：ニュージーランド・オークランド
オークランド市の特徴：

航空拠点であるオークランド空港とオセアニア地域有数の商業港湾であるオークランド港が所在している。海に面した地形から海上交通が栄え「City of Sails（帆の街）」の愛称で呼ばれる。

■創立：1989年

■学生数：25,000人

■大学の特徴：

- ・常に将来を見据えた大学といわれ、新しい考えに満ちた学習方法が取り入れられています。
- ・ビジネスの実社会で役立つスキル（特にコミュニケーション能力・プレゼン能力）を身につけられる実践的な授業を展開しています。
- ・教室には最新設備が取り揃えられており最大30名規模の授業を行う相互学習が可能な環境を提供しています。



過年度派遣学生体験記
(2018年度春期 BSAIV・女性)

ニュージーランドの気候は穏やかですが、一日の寒暖差が激しいので一枚羽織る物を持ち歩く事は必須です。学生が多く、夜でも安全でにぎやかで、港が近くにあり、バスに乗るとビーチにも行けます。オークランドは全てがコンパクトにまとまっている、緑と坂の多い美しい学生の街です。

AUTの交換留学生はAUTの寮、WSAに住みます。WSAには留学生や国内の地方出身者など多くの学生が住んでおり、そのうちの4人と同じ部屋で過ごします。寮から学校や図書館、ジムへは徒歩5分で中心地も近いので、とても便利です。入寮しなかった学生もいましたが、みんな友人を作る事に苦労していました。多くの人に出会う機会のあるWSAをお勧めします。

学習面では、勉強する事で知識を蓄えそれを社会で実践する、という楽しさを知る事が出来ました。経営学に関する授業しか選択できませんが、授業は1コマ3時間と長く、その3時間は基本的に講義とワークショップとの2つに分けて進められます。一学期の最初は授業の内容についていくよりも、先生の早口で専門的な英語を聞き取り意味を理解する事に労力を費やしましたが、クラスに友達ができ、話している内容が分かる様になれば、授業の内容は専門的で、かつ課題が成績に直結しているのでもやる気も出ました。色々な研究者の様々なセオリーを深めていく事もとても楽しく、勉強が自分の身についている事を心から感じました。ただ、日常生活で使用する言葉と、授業で使用する言葉は違うので、留学前にもっと専門的な語彙を増やし、英語での論文の書き方も勉強しておくべきだったと思っています。一学期は基礎的な授業を多く受講していたので、もう少し専門性の高い授業を取れば良かったとも思いました。また、時間割ももっと工夫しておけばとも思ったので、反省は二学期に生かしました。

将来のビジョン、理想、目標を持つ事は本当に大切です。その目標に向かって逆算的に今すべき事が見えてくるからです。また、可能性は自分の行動次第で広がるし、行動は若いうちに起こしておいたほうがいい、という事も感じました。その行動で得た知識と経験を生かしていく事はその後いつでもできますが、経験し、知識を蓄え、自分を顧み、行動に移す事ができるのは、体力がありかつ世間体をそれほど気にする必要ない、若さがあるうちの方が良いと感じるからです。

AUTで留学生活をして良かったと胸を張って言う事が出来るのは、人間として一回り成長できたと感じているからです。それは4年間立命館大学で、似たようなソサエティ、同じような常識で育てられた人達ばかりと関わり、勉強し続けるだけでは得ることのできなかった種類の成長であると感じています。

どの様な人生を歩み、何を経験し、誰と出会い付き合っていくのかは自分次第です。BSAIVのAUTへの留学という全く新しい環境で、多くの人達と出会い多くの経験をし、大学生という多感で柔軟な思考で物事をとらえる事のできる今、素晴らしい成長の機会を得る事ができた事を感謝したいと思います。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	自習	Visual Communication in Business	Business and Culture	自習	授業準備	小旅行、買い物、勉強など
午後		Business and Culture	Leadership for Sustainable Environment		Ethics and Corporate Responsibility	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

タマサート大学 ビジネススクール



国・都市：タイ・バンコク

バンコクの特徴：

王朝の歴史が深い都市でありタイ経済の中心でもある。

■創立：1951年

■学生数：15,000人

■大学の特徴：

- ・法律学校をその前身とした、タイ国内で2番目に古い名門大学。首相、大臣、議員、ビジネスにおける成功者など、タイだけではなく、国際的にも貢献している多くの人材を輩出しています。
- ・過去60年間徐々に拡大し社会科学、人文科学、自然科学どの領域にもコースが増設され現在では15の学部があります。
- ・バンコクの中心地にありチャオプラヤ川沿いのキャンパスで学びます。
- ・全ての科目が英語で開講されています。General Basic Courses、Business Core Courses に加えて、3つの専門分野 (Accounting、Finance、Marketing) から科目履修が可能です。タイ人の学生に加えて、世界中から集まる留学生と一緒に学びます。
- ・パディ制度あり。



過年度派遣学生体験記

(2016年度夏期 BSA II・女性)

留学先では、驚くことばかりでした。まず、『タイ』についての印象が変わりました。正直、タイ留学をするにあたり、英語をここまで学べるとは思っていませんでした。英語圏からの留学生も多く、想像以上に優秀な学生ばかりでした。インターナショナルなタイの学生も多く、勉学に必死に挑む姿には感心しました。

今回の留学では、タイの文化や言語、何かに挑む姿勢、そして慈愛の3つを知ることができました。タイ語は授業、そしてビジネススクールのタイ人の友達が教えてくれました。どれも生活で役立つものばかりで、言語を通じてタイ人の優しさにも触れることができました。そして、特にタイ人の学生は、いつも何かを頑張っていました。勉強に励み交換留学を目指す学生、就きたい職に就くために準備をする学生、親の仕事をサポートする学生など、目標に向かって真っすぐに挑んでいました。また、国王が亡くなった際は国民全員が涙を流し、慈愛の素晴らしさを伝えてくれました。

また、タイの授業は正直、かなりハイレベルでした。特に私が履修したビジネスの授業は英語が不自由なく話せる、理解できる学生ばかりで構成されており、驚きました。また、タイ人の学生は予習や復習を熱心にする為、プレゼンテーションや課題のクオリティもとても高いです。殆どの学生が学費を払ってくれる親に大変感謝し、その気持ちを勉強に充て頑張っていました。そんなタイ人の学生と会う度、私もその姿勢を見習うべきだと気付かされました。

一方で、毎週出席することが楽しみな授業もありました。その一つがタイダンスです。各週様々な地域のタイのダンスを踊り、最終日には発表会で成果を披露しました。各地域の衣装や化粧まで体験することができ、大変良い経験となりました。留学生用の授業の一つなので、男性女性関係なく、タマサート大学に留学される方には是非お勧めしたいです。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	自習	Global Environment of International Business	Beginning Thai (タイ語初級)	自習	Beginning Thai (タイ語初級)	旅行、映画、買い物など
午後			Introductory Microeconomic		Thai Dance	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

ストックホルム大学 ビジネススクール



国・都市：スウェーデン・ストックホルム
ストックホルムの特徴：

ソニーモバイルコミュニケーションズ、Saab、Volvo、IKEAなどの国際企業が多数あることで知られています。

■創立：1878年

■学生数：50,000人

■大学の特徴：

- ・留学生約800人、教職員約6,000人を数えます。ストックホルム大学はスウェーデンの最大かつトップレベルの大学であり、ビジネススクールも、北欧ではトップレベルにランクされています。
- ・ビジネススクールには5,000人以上の学生が所属しています。なお授業は全て英語で行われます。
- ・ストックホルム大学ビジネススクールの卒業生の多くが様々な国際企業で働いています。親日感情が強く、日本人にとって大変生活しやすい国だと言われています。普段の生活でも英語はよく通じます。
- ・パディ制度あり。



過年度派遣学生体験記
(2017年度夏期 BSA II・男性)

スウェーデンに留学が決まった直後はあまり実感が湧きませんでしたが、準備が進むにつれて楽しい感情と不安とが混じるようになりました。スウェーデンに到着した時は8月だったのに日本の春くらいの気温で、寒さを感じてしまいました。ただ、スウェーデンで「寒い」といったのは後にも先にもその頃だけだったと思います。はじめは慣れない土地でわからないことが多くありましたが現地の人はとても親切で、次第に楽しさを感じるようになりました。

生活面では、スウェーデンでは物価が高いため物とお金のやりくりにとっても苦労しました。比較的安いスーパーを探してそこで食材を買ったり、いくつかお店を回って安いところを見つけたりと、今考えるとよくやったものだなと思います。入寮してはじめての1ヶ月間はWi-Fiが不調だったのですが、業者にメールを送っても返信が1週間後で、催促してやっと来てもらっても工事が上手くいってなかったみたいで、もう1回頼んでも取り合ってもらえないといった日本では考えられないことが起こり、文化の違いを痛感しましたがそれもまた良い経験だったと思います。

授業は日本と同じような大講義形式のものもあるのですが、ユニークだったのが少人数のセミナーです。スウェーデンでは1ヶ月に1つの授業を深めるという授業スタイルのため、学習スタイルに慣れるのに時間がかかりました。その一環でセミナーによるグループワークが必ずあるのですが、メンバーは日本とは違い意欲的でとても良い刺激を受けました。授業以外では、日本語を勉強している学生と会話をするカフェに行っていました。そこに来る学生は日本語がとても上手で、その人たちの中には日本に来たこともない人がいたことは自分にとって驚きでした。同時に、留学前に「外国語を上達させるには海外に出るべきだ」という考えは浅いものであったのだなと痛感しました。「練習をする環境さえ整えばどこでも外国語は上達できる」ということを現地の学生から学ぶことができました。彼らとはカフェでのつながりだけでなく、一緒にスウェーデンの家庭料理やお菓子を作ったり、冬にはスケートに行ったりと私の留学生生活をカラフルなものにしてくれて本当に感謝しかありません。

この留学生生活を経て、人とのつながりの大切さと異国で暮らすことの大変さを感じることができました。その一つ一つが新鮮なもので留学をしなければ感じられなかったものであるため、今回スウェーデンに行けたことが今後の自分の財産になることは間違いのないと思います。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	Management (Lecture)	Management (Lecture)	自習	Management (Lecture)	日本語学習支援	日光浴、アイスホッケー観戦、お菓子作り、パーティーなど
午後	Management (Seminar)	Management (Seminar)	日本語学習支援	Management (Seminar)	自習	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

ストラスブール大学

EMストラスブールビジネススクール



国・都市：フランス・ストラスブール
ストラスブールの特徴：

ストラスブールはパリからTGVで約2時間、フランクフルト国際空港からバスで2時間です。

■創立：1631年

■学生数：30,000人

■大学の特徴：

- ・ストラスブール大学はその歴史を16世紀にさかのぼるフランス有数の大学で、法、政治、マーケティング、コミュニケーション、ジャーナリズム、科学技術の教育を提供しており、今日に至るまで様々な分野の人材を輩出してきました。
- ・ビジネススクールはEM (Ecole de Management) ストラスブールビジネススクールとして知られ、52もの国と協定を結び、学生の3分の1が世界各国からの留学生で形成されている国際色豊かな機関です。



過年度派遣学生体験記
(2018年度夏期 BSA II・女性)

私は英語を学び始めた頃から、留学に行く事が夢でした。大学に入学してから第二外国語としてフランス語を新たに学びその魅力にはまり、経営の知識も英語とフランス語の知識も深められるEMストラスブールへの留学を決めました。

いざ行くとなると初めての長期海外留学であり、そもそも一人暮らしをすること自体が初めてで勉強以外の不安も大きかったです。VISAの手続き、現地での部屋探しなど、行く前から苦戦の日々でした。しかし、このおかげで自分でよく考えて行動するという当たり前の様で意外と出来ていなかった部分が鍛えられました。

ストラスブールは予想よりもはるかに穏やかでとても過ごしやすい街でした。ルームシェア生活は毎日が楽しくルームメイトのフランス人とは一緒に料理をしたり、フランス語の勉強を手伝ってもらったり、他愛もない事からまじめな話までをする中で、本には載っていない日常の「生きた」会話を体験することができました。30分ほど歩くと、ノートルダム大聖堂がある市内に着きます。日曜日は大抵のお店は閉まっているのですが、朝にお気に入りのパン屋さんにパンを買いに行く事、道端で急に始まるジャズパフォーマンスに足を止める事が日曜日の習慣でした。忘れてはいけなのが11月末から1ヶ月間開催される大規模なクリスマスマーケットです。ノートルダム大聖堂とイルミネーションを背景にして飲むホットワインは最高でした。

授業においては、世界中から集まった学生達とグループワークやディスカッション、プレゼンテーションをしました。時には円滑に話し合いが進まなかったり、自分の英語力や知識不足によりついていく事が出来なかったりしましたが、この挫折のおかげで「なんの！」と食らいつく度胸がよりついたと思います。また、週に1度のフランス語の授業に関してはクラスメイトのレベルが目に見えて高く、最初は先生の言っていることを理解するのがやっとで色々と苦労しました。4ヶ月という短い留学期間でしたが、ルームメイトの助けもあり、今は少し自分の意見を伝えられる様になりましたし、日本でも出来る事が見つけられたので良い機会だったと思います。そして何よりも、この1セメスターで「アウトプット」の重要さに気づく事が出来、挫折しそうになる時ほど自分の成長の時だと考え行動に移す事が出来る様になりました。言語の勉強はやればやるほど面白くなっていくので、これからも楽しみながら継続していこうと考えています。

今回の留学において得られたものを今後に活かし、一人の人間として成長する糧としていきたいと思っています。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	授業 (Intercultural Management and Leadership など)	授業 (Human Resources and Socially Responsible Perspectives など)	朝マルシェで買物 授業 (Economy of Happiness など)	授業 (Principles in International Team Management など)	授業 (Global Business Negotiation など)	イベントや小旅行
午後	課題	グループワーク	授業 (フランス語など)	バレエやオペラ鑑賞	料理	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

ブレーメン州立経済工科大学



過年度派遣学生体験記
(2017年度夏期 BSAIV・女性)

私は旅行で海外へ行ったことは何度かありましたが、長期滞在はこの留学が初めてでした。留学中は6人の留学生達とシェアハウスで生活していました。初めは少し緊張しましたが、皆フレンドリーでとても安心したのをよく覚えています。ホームパーティーなどで友達の輪も広がり、シェアハウスでの生活を選んで良かったと思っています。家の掃除問題で揉めたことは何度かありましたが、それも今となっては良い思い出です。

日々の過ごし方は人によって様々で、私は午前中にビジネスの授業、午後はタンデム、夜にドイツ語の授業というスケジュールを組んでいたため、一日中大学で過ごす事がほとんどでした。タンデムとはパートナーと互いに言語を教え合う時間で、私の留学生活の大部分はこの時間で占められていたと言っても過言ではありません。各セメスター6~7人のタンデムパートナーがいたので、ドイツ語の授業のみ受講していた学生と比べると、毎週10時間ほど多くドイツ語を勉強していた事になります。留学して初めてドイツ語の勉強を始める人もいますし、願いすれば英語でのタンデムもしてもらえるので、ドイツ語の知識がない人でも心配ありません。

タンデムパートナーとは勉強だけでなく、旅行やパーティーなど、共に過ごす時間が多かったため、お互いの将来についてなどもよく話しました。そこで日本とドイツの文化や社会の違い、そして考え方の違いに気づかされる事が多々あり、改めて私は日本人なのだと感じさせられました。留学をする前は気づかなかったのですが、やはり自分の価値観など全てがヨーロッパの人々とは違い、良くも悪くも日本的だと自分を見直す事ができましたし、他国の文化を今までよりも理解できるようになったと思います。

留学生活の終盤に、現地の友人に私の第一印象を聞いてみたことがあります。その答えは「日本人らしい小さな女の子」でした。今の印象は？と聞いてみると、「もう小さい女の子ではないね。全て完璧という訳ではないけれど、自分のやりたいことを何でも挑戦して、強くなったと思う。」と返ってきました。ドイツに来て、行動力のある学生たちを目の当たりにして、自分もこの様になりたいと思っていたので、その言葉がとても嬉しく、留学して良かったと強く感じました。

もちろん誰の助けも借りずに自分の力だけで過ごしてきた訳ではありません。多くの人の支えがあってこの留学を無事に終えることができました。ブレーメンで体験した事、学んだ事、出会った人々、全てが今私にとって大きな財産です。

※先輩体験記より抜粋



国・都市：ドイツ・ブレーメン
ブレーメンの特徴：

中世以来の自由都市としての地位を現代まで維持している。ブレーメン州はブレーメン市と、ブレーマーハーフェン市の2都市からなる。

■創立：1988年

■学生数：8,000人

■大学の特徴：

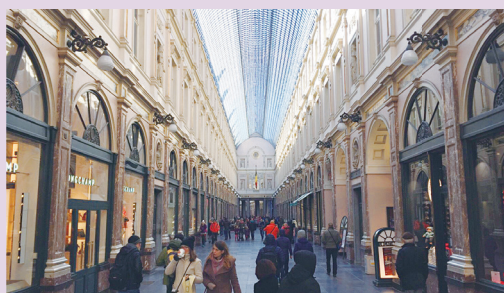
- ・ 州立単科大学で、ヨーロッパはもちろん世界の大学と交換留学協定を結んでおり、留学生の受入体制も整っています。学生の約10%が外国籍です。
- ・ ドイツで最も新しい大学の一つであり、単位互換性の高さや国際性が特色。ドイツ国内の複数の賞を受賞し、2001年にはドイツ学術財団連盟より「改革単科大学」の名称が与えられました。
- ・ BSA学生は経済学部の特設プログラムに参加します。ドイツ語および英語コースが開講され、それぞれの言語で専門科目に参加する事ができます。
- ・ タンデムの制度あり。

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	タンデム (ドイツ人とペアを組み、 お互いの言語を教えあう 時間)	授業 (Global Marketing など)	自習	授業 (Strategic Management など)	授業 (Social Media Marketing など)	イベントや 小旅行
午後	タンデム 英語授業	タンデム ドイツ語授業	授業 (Elements of Corporate Finance など)	タンデム	自習	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

アーヘン応用科学大学



国・都市：ドイツ・アーヘン
アーヘンの特徴：

電車でパリから約2時間半、ブリュッセルからは約1時間。車で30分ほど行けばオランダ/ベルギー/ドイツ3ヶ国の国境地点に到着する。古代ローマ帝国時代から温泉保養地として知られており、8世紀末には、一時、フランク王国のカール大帝が王宮を置き事実上の首都となった。

- 創立：1971年
- 学生数：13,000人
- 大学の特徴

- ・世界中の170大学と協定を持っているが、現在日本での交換協定校は立命館大学経営学部のみ。
- ・ドイツの新聞社（Die Zeit）による大学ランキングのビジネス部門でトップにランキングされている。
- ・10学部からなり、アーヘン内の4キャンパスとユーリッヒの1キャンパス、計5キャンパスで開講されている。



過年度派遣学生体験記
(2017年度夏期 BSA II・女性)

私にとって2度目のドイツ滞在は、6ヶ月間のアーヘンでの留学生活でした。留学するまではよく知らない街だったのですが、実は神聖ローマ帝国の時代に有名な場所であったり、世界遺産である大聖堂があったり、ドイツで有名なクリスマスマーケットにおいて国内で5本の指に入るほどの人気地であったりと、魅力が詰まった場所でした。また、アーヘンはドイツ・オランダ・ベルギーの3国が接する場所の近くに位置するので、バスや電車で少し乗るだけで、他の国に行くことができます。学生の街として知られており、賑やかですが、自然豊かでもあり、ゆったりと過ごせる場所もたくさんありました。

アーヘン応用科学大学では、主にビジネスについて英語で学んだほか、ドイツ語の授業をドイツ語で説明を受けながら受講することも出来ました。授業は基本的には20人くらいの人数で行われ、多くても70人ほどでした。フランス、ポーランド、スペイン、カザフスタン、アルメニア、中国、韓国、アメリカなどさまざまな国からの留学生とともに学びました。授業は先生が作り上げるのではなく、学生も積極的に参加して作り上げていく形でした。自分の意見をしっかりと言うことが出来ないときはやはりしんどい思いもしましたが、周りの友達が意見を聞いてくれる環境はありがたかったです。

ドイツで生活して強く感じたことは、多民族国家であるドイツでは、いろいろな人種の人がいる生活が当たり前であったということです。日本に住んでいると外国人に出会うと『観光客なのかな』と考えることが多いと思います。ドイツではそもそも、どの人がドイツ人であるか/そうでないかが見た目からは区別がつかず、本当にさまざまな人種の方がいるゆえに、ドイツ人らしさとは何かがよくわかりませんでした。それぞれの人種を区別して捉えるという考え方はあまり良くないかもしれませんが、私はそのように強く感じました。隣国と陸続きで、移民の受け入れを多く行っているがゆえの人情を体感できたように思います。

留学生活全体を通して私が思ったことは、行動力・瞬発力の大切さです。ドイツに住む人はコミュニケーションを多く取っていて、バスで出会った初対面の人に声をかける方がいたり、わからないことがあればすぐに聞いたり、それにすぐ答えてくれる誰かがいるという状況を普段の生活の中でよく目にしました。赤の他人同士であっても、困ったときはとっさに協力し合っている姿を目にすることができたのはドイツのいいところだと思いました。日本にいと、なにか手助けをした方が良く思われる状況で自分の中で相手がどう思うかを勝手に推測し、さまざまな理由をつけて動かないことがありましたが、その葛藤自体がもったいないのだと気づきました。なので、日本に帰ってきてからは、まずは手を差し出すというスタンスで生活しています。動いてよかったと思うことが圧倒的で、これを当たり前に行っているドイツの人の在り方は見習うべきだと感じました。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	自習	国際経営演習	マーケティング論	ドイツ語講座		買い物、 ジャズダンスレッスン など
午後		情報技術講義	情報技術講義	マーケティング論 欧州ビジネス管理論	欧州ビジネス管理論	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

アルカラ大学



国・都市：スペイン・アルカラ
(正式名称：Alcalá de Henares)

アルカラの特徴：

首都マドリードから国鉄RENFEで約35分、バスで約30分。学問の都市、学生の街として知られています。小説『ドン・キホーテ』の作者セルバンテスの出生地としても有名です。

■創立：1977年

■学生数：約26,000人

■大学の特徴：

- ・3つのキャンパス (Campus histórico, Campus Científico-Tecnológico y Campus Guadalajara) で約30,000人の学生が学んでいます。3キャンパス間は国鉄RENFEとバスで快適に行き来できます。
- ・多くの留学生を受け入れている国際性の高い大学です。
- ・世界で最初の計画的な大学都市であること、その都市計画がアメリカ大陸やヨーロッパのモデルになったこと等から、1998年アルカラ大学と周辺の歴史地区がユネスコの世界遺産 (文化遺産) に登録されています。
- ・大学キャンパス内部の大講堂では、毎年4月23日にスペイン語圏のノーベル文学賞といわれるセルバンテス賞の授賞式が行われます。
- ・アルカラ大学は留学生のためのスペイン語教育に力を入れています。留学生のためのスペイン語コースはすべて有料で、アルカラ大学付属のアルカリングアが運営しています。



アルカラ大学の紹介



“CRAI”
歴史地区にある大学図書館
24時間365日開館



“CRUSA”
理系キャンパス内にある大学寮



“Residencia Lope de Vega”
歴史地区にある大学寮



“Estación de Renfe (Alcalá de Henares)”
国鉄レンフェの駅 (アルカラ・デ・エナーレス)



“Comedor en el Colegio de San Ildefonso”
アルカラ大学サンイルデフォンソ
学院内の食堂



“Estadio Santiago Bernabeu”
サンティアゴ・ベルナベウ スタジアム

週間スケジュール例

First Term

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	English for Tourism Business 9:00~12:00 (グアダラハラキャンパス)	English II 9:00~12:00 (グアダラハラキャンパス)	Business Trends: A Practical Approach 11:30~14:30	Economics of the European Union 11:30~13:00	Economics of the European Union 10:00~11:30	ショッピング、美術館巡り
午後 ※						バル巡り、サッカー観戦

Second Term

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前		International trade and globalization II 10:00~13:00	Gestión Internacional de la empresa 10:00~13:00	Marketing Internacional 8:30~11:30		ショッピング、美術館巡り
午後 ※			English for Finance 18:00~21:00			バル巡り、サッカー観戦

※上記内容は派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

※スペイン語履修希望者は、有料ですが、アルカラ大学付属のアルカリングアにて履修可能です。

(★) 派遣型

レディング大学



国・都市：イギリス・レディング市
レディング市の特徴：

ロンドンから電車で25分。商業都市で、国際企業の英国支社が近隣に立地しています。

■創立：1926年

■学生数：15,000人

■大学の特徵：

- ・ヒースロー空港／ガトウィック空港へのアクセスが良い場所にあります。
- ・キャンパス内には湖もあり、緑も多く、生活環境はとても良いところです。在学生の10%程度は留学生です。
- ・国際経営のレディング学派が生まれた大学であり、イギリスで最初に作られた伝統あるファウンデーションコースの経営関連の授業は、ビジネススクールの教授陣が教鞭を取ります。
- ・ファウンデーションコースに在籍する約120名の学生と共に学修することによって、英語力だけでなく、経営学の基礎学力も飛躍的に伸びることで有名なコースです。



過年度派遣学生体験記
(2017年度夏期 BSAIV・男性)

本プログラムを通して、自分は様々な面において成長できたと思います。このプログラムを総合的に見ると、過去に習った理論などをさらに実践的にどうにかせるかなどといった、より発展的なステージで物事を考える良い機会になったと思います。そして、レディング大学での学びの環境は自分の理想に非常に近いものでした。そう考えさせられた理由は教育のシステムと内容にあると思います。

レディング大学のIFPでは、立命館のように1週間に計14科目ほど、それぞれ90分間全く別の科目を学ぶシステムとは違い、基本的に履修科目は4つで、1週間に計14回ほどの講義があり、それぞれの授業時間は50分でした。つまり、1週間の授業のコマ数は同じですが、授業を受ける時間と科目の種類が少ないのです。1週間の間に同じ科目が複数回、別々の日にあることで、仮に予習や復習ができなくても自然と頭に定着しやすくなっていました。そして受け身の授業だけでなく、Seminar、Tutorialなどと少人数形式の異なる形態の授業も行なわれていたため、より濃い内容の授業を受けることができました。

春季タームではグループワークが増え、特に経営学の授業での取り組みは忘れられないものとなりました。マーケティングプロジェクトの課題で、センター街にあるお店のマーケティング調査を行うというものがありました。そのマーケティング調査をする際の着目点などは、その直前に習った理論などを参考にして、それらを反映させて顧客のデータを集めていくというものでした。こうして実験的に経営の理論を利用してデータを見るのは初めてで、非常に楽しく取り組むことができました。そこで苦労したのは、メンバー間のモチベーションの差でした。全員がという訳ではありませんが、課題に対する姿勢は文化背景によって大きく差があるように感じ、ほぼ全てのグループに必ず1人は貢献度0%の人がいたり、グループワークやリーダーシップのスキルが求められる課題でした。

留学生活中は本当に沢山の人の関わりを大切にできたと感じています。タームが始まってすぐバンドサークルやテニスクラブに所属して、授業で一緒になる学生以外の人との関わりも増やすことができました。そして、自分の趣味の音楽がきっかけで、IFPで初の、学生が特技を披露するタレントショーが開催されました。そこではメインパフォーマーとして会場を盛り上げることができ、IFP以外の人たちなども誘うことができ、面白いイベントを生み出すことができ満足しています。

たったの半年間でしたが、沢山の人と触れ合い、出会いや環境を非常に大切にできた素敵な留学生活だったと思います。今後もこの半年間で学んだことを活かし、より良い大学生活を送りたいと思います。

※先輩体験記より抜粋

週間スケジュール例

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	週末
午前	授業 (Economics など)	授業 (Economics など)	授業 (Economics など)	授業 (Introduction to Business and Management など)	授業 (International English Plus など)	掃除、買い物、バスケットボールパーティー 課題など
午後	授業 (International English A など)	授業 (Introduction to Business and Management など)	バスケットボール ソサエティー	授業 (Academic Skill など)	買い物など	

※上記内容は、派遣先大学の開講年度により変更となる場合があります。

(1) BSA IIIの特徴

キャリア型の「BSA III」は、「ビジネスを発見し、ビジネスを創造する」という学部教学理念に沿い、グローバルな視点に立って世界を舞台に活躍する「ビジネス・リーダー」を育成する実践的なプログラムとして、海外の企業、日系、その他企業などで実務研修を行います。

BSA IIIキャリア・ディベロップメント型 (海外実習 II)

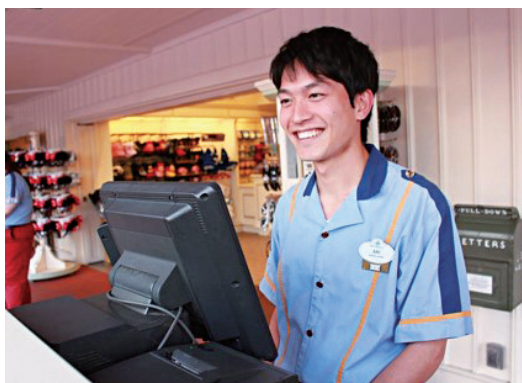
- ・将来のキャリア形成を目的とし、海外の企業や公的機関での研修を行います。そこでの実践的な業務を通じて、将来海外で働くために必要な様々なスキルや知識を学びます。研修で得られた経験と学ぶ意欲をもとに、帰国後のさらなる学修につなげ、国際舞台で「ビジネスを発見し、ビジネスを創造する」能力を育成する実践的なキャリア形成型の就学体験プログラムです。
- ・受入機関の業務内容から一定の外国語運用能力を必要とされます。受入機関によって具体的な外国語のスコア条件は異なりますが、必要とされる外国語のスコアは、TOEIC®L&RテストもしくはTOEIC®L&R IPテスト600点以上を目安とします。

(2) 応募資格・派遣先

	派遣先名称	派遣開始時期	募集人数	対象回生	GPA	語学基準 (目安)
派遣型	アメリカ・フロリダ州/ バレンシアカレッジ および ウォルト・ディズニー・ワールド	2月、8月 (約6ヶ月間)	若干名	派遣時 2回生以上	2.75以上	TOEIC®L&Rテスト (IP可) 600点/ TOEFL iBT®テスト61点/ またはIELTS 5.0以上

(3) その他

- ・スケジュール、応募要件、参加費用 (※)、奨学金額、単位取得数については募集要項・ガイダンスで確認してください。
※選考過程で交通費等の費用が発生する際は、全て自己負担となります。
- ・各コース応募時は、語学基準と成績基準を満たす証明書類の提出を求めます。
- ・インターンシップ科目の要卒単位認定には、制限があります。
〈制限内容〉卒業までに原則2科目/8単位以内。単年度は1科目/4単位以内。
- ・全学インターンシップ科目との併願はできません。



- 留学の目的を事前に様々な角度からじっくりと考えてみてください。曖昧な動機で留学に応募すると明確な成果を得ることができない場合がありますので、目的意識をしっかりと持つことが大切です。
- 留学を応援してくれる家族・保護者のみなさんの理解を得ておくことは非常に大切です。どの時期に、どの国・地域で、どのような内容のプログラムに参加したいのかという意味を伝え、理解を得ておきましょう。また、留学に向けての準備段階や、留学中はあらゆる情報を共有し、無用な心配をかけないように心がけることも大切です。家族とのコミュニケーションは留学成功への第一歩です。
- 留学に必要な経費を計算してみましょう。予想よりも多くのお金が必要かもしれません。それらの必要経費を準備できる資金計画はあるか、家族からの経済的援助を受けることはできるか等、クリアしておく必要があります。
- 留学にはパスポート申請やビザの取得を始め、海外渡航に関わる様々な手続きが必要になります。留学を希望する場合は、前もって経営学部事務室までご相談ください。
- BSAの各プログラムは派遣先大学や機関が企画・運営しています。予定しているプログラム内容から変更になる場合もあります。
- 派遣確定後にある事前講義・事後講義やガイダンスへの出席および渡航手続き等に関し、教職員の指示による期限を遵守しない場合、プログラムの参加や単位授与を取消す場合があります。
- 各プログラムにおいて、派遣内定者が一定人数に達しない場合は、プログラムが実施されないことがあります。その場合は別途、派遣内定者へ連絡します。
- 現地での留学・実習期間が定期試験の追試や成績確認制度の日程と重なる場合は、それらを受けることはできません。また、それに対する特別措置もありません。
- 派遣に際して個人加入の海外旅行保険の有無に関わらず、立命館大学指定の海外旅行保険に加入する必要があります。



memo



■応募編

- Q** BSAプログラムに参加したいのですが、応募資格を満たすには何を準備すればよいですか。
- A** 学業成績と語学スコアが重要です。留学するには、日々の学修に励んで、よい成績を修めるよう心がけてください。なお、出願要件については、変更になる場合があります。応募前に必ず募集要項を確認してください。
- Q** BSAプログラムと全学募集プログラム（国際教育センター主管の留学プログラム）はどう違いますか。
- A** まずプログラムの運営について、BSAは経営学部によって運営されています。全学募集プログラムは、国際教育センターによって運営されています。また、BSAのプログラムではビジネススクールや経営学部を有する海外の大学に留学し、経営専門知識を修得することに重点が置かれている点が特徴です。
- Q** BSAプログラムと全学募集プログラム（国際教育センター主管の留学プログラム）を併願することはできますか。
- A** すでに同じ期間に実施される留学プログラムの選考に応募・合格している方は、同期間のプログラム（全学募集プログラム・BSAプログラムの別を問わず）に応募できません。同じ期間に実施されるプログラムへの応募を希望する場合は、応募・合格しているプログラムの辞退を申し出た後で、応募してください。

■準備編



- Q** 留学にはどれぐらい費用がかかりますか。
- A** 留学先や期間、プログラムによってかかる費用は異なります。詳細については本手引き中の「プログラム費用欄」を参照してください。
- Q** 派遣先大学で履修するコースや科目を知りたいのですが、どのように確認出来ますか。
- A** 経営学部の協定校の多くは、留学生のためのホームページを開設しています。ホームページ上で、留学生が受講出来るコースを参照してみてください。また、経営学部事務室では、過年度派遣学生が受講していた科目リストを管理しています。留学の相談にあたって、ご参考にいただくことも可能です。
- Q** BSA II・IVで留学する場合、渡航日や帰国日は自分で決めて良いのでしょうか。
- A** BSA II・IVでは、航空券は各自手配になりますが、必ず本学及び派遣先が定める期間内に出入国するよう定められています。アジア圏に留学する場合はプログラム開始・終了日の前後3日以内、その他の国地域の場合はプログラム開始・終了日の前後5日以内に合理的な最短ルート（第三国・都市での乗り継ぎは可）で渡航/帰国を行っていただくこととなります。

■留学中編



- Q** BSAプログラム参加中の滞在先はどのような場所ですか。
- A** 基本的に派遣先大学指定の学生寮に滞在します。プログラムによって、派遣先大学指定のホームステイやシェアハウス、アパートになる場合もあります。
- Q** 留学を中断する、または留学期間を延長することは可能ですか。
- A** 原則として、認められません。ただし、やむを得ない事情の場合は、必ず留学先大学および経営学部事務室に相談してください。
- Q** 留学中のアルバイトは認められますか。
- A** 留学先で学業に専念していただくため、BSAプログラムでは留学中のアルバイトは認めていません。



■ 帰国後編

- Q** 留学先大学で修得した単位は立命館大学でどのように認定・授与されますか。
- A** BSA II およびIVにおいて修得した派遣先大学の単位は、本人による単位認定申請を受けて、所定の基準に基づいて、本学で修得すべき授業科目の単位として認定を行います。認定単位数については、派遣された大学での各自の履修科目により異なります。また、BSA I、I Plusでは、各プログラムに対応する立命館大学の単位が授与されます。
- Q** 帰国後、すぐに必要な手続きは何ですか。（適用対象：BSA II・IV）
- A** 帰国後、すぐに必要な手続きは「留学終了届」と「留学帰国者単位認定案申請書」の提出です。この手続きは留学中に修得した科目の単位認定に関わりますので、帰国後速やかに行ってください。
- Q** 帰国後、学内で自分の留学経験を活かしたいのですが、どのようなところで活かすことができますか。
- A** 帰国後には、海外派遣・留学経験、修得した経営学の専門知識や外国語運用能力等を活かせるよう、英語による経営学専門科目の受講、留学生パディ制度による受入留学生支援、BSAガイダンスでの体験談発表、BSAホームページでの留学体験記執筆など、さまざまな活躍・活動の場を用意しています。

■ 履修編



- Q** BSAプログラムに参加して4年間で卒業できますか。
- A** BSAの留学プログラムに参加する場合、留学期間は在学年数に含まれるので、しっかりとした学修・留学計画を立てていれば4年間で卒業できます。
- Q** 自分の語学力で海外の大学の講義についていけるか不安ですが、大丈夫でしょうか。
- A** 出願要件をクリアしているのであれば、語学力について必要以上に心配することはありません。ただし、留学開始直後は、慣れない授業スタイルや大量の課題に苦しむ学生が多いのも事実です。その際には、積極的に留学先の先生や職員と相談することをお勧めします。受身にならずに自ら解決策を探そうとすることが大切です。試行錯誤して努力しているうちに自分に合う方法が見つかるはずですよ。また英語以外の言語を公用語とする大学への留学を希望する場合は英語だけでなく、派遣までに現地公用語の学修にもぜひチャレンジしてください。派遣先の生活環境によっては公用語を一定程度修得しておいた方が、生活面での心配が軽減されます。
- Q** 1セメスター以上の留学をする場合、専門演習（ゼミ）の履修は可能ですか。
- A** BSA（正規留学プログラム）に参加する場合、留学期間中の「専門演習Ⅰ～Ⅲ」の受講は免除されます。留学帰国後は、原則として留学前と同じクラスに所属し継続履修をする事ができます。帰国後に所定の申請書に必要な事項を記入の上、OIC学びステーションへ提出してください。また、専門演習選考期間に留学をしている場合は派遣先からの応募も可能です。面接については各担当教員の指示に従ってください。

■ その他



- Q** BSAプログラムでは、どのような奨学金を受けられますか。
- A** 立命館大学は海外留学に参加する学生を支援する「立命館大学海外留学チャレンジ奨学金」制度を設けています。BSAプログラムでは本奨学金制度が適用されます。BSA各プログラムの奨学金の詳細は、本手引きの該当ページを参照してください。なお、BSA IIIについては、募集要項・ガイダンスにて確認してください。（BSA I：P.8 BSA I Plus：P.14 BSA II・IV：P.21）
- Q** BSAプログラムに参加して就職活動に支障が出ませんか。
- A** とくに就職活動に支障はありませんが、出発時期によって留学と就職活動期間が重なる場合、企業説明会や選考に参加できない場合もあります。留学と就職活動を両立させるために、しっかり留学計画を立ててください。必要に応じてキャリアオフィスに事前にご相談ください。

経営学部BSAⅠ～Ⅳ学生派遣実績（2006年度～2021年度）

		2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020		2021		合計
		現地渡航	オンライン	現地渡航	オンライン															
BSAⅠ	中国（対外経済貿易大学/蘇州大学）	18	12	13	8	17	21	18	6	-	5	10	11	26	13	0	0	0	0	178
	ニュージーランド（マッセイ大学）	18	30	26	17	18	8	7	23	12	18	13	11	15	16	0	0	0	0	232
	アメリカ（ウエスタンミシガン大学）	-	11	30	0	13	20	23	21	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	131
	韓国（建国大学）	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
	オーストラリア（マコーリー大学）	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
	小計	51	53	69	25	48	49	48	50	36	23	23	22	41	29	0	0	0	0	567
BSAⅡ	アメリカ（カリフォルニア大学デービス校）	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	5	8	3	0	0	0	0	0	24
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	5	8	3	0	0	0	0	0	24
BSAⅢ	アメリカ（パレンシアカレッジおよびディズニー）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	3	0	0	3
	カナダ バンクーバー（MYK）	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
	イギリス（クロスカルチャーホールディング）	-	4	2	3	0	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
	中国（CIP）	-	2	4	3	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
	アメリカ（ディズニー）	-	2	6	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
	アメリカ・サンディエゴ（HIA）	-	-	-	-	-	8	7	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21
	小計	0	8	12	12	0	9	7	10	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	61
BSAⅣ	大連外国語大学（中国）	-	2	4	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0	13
	対外経済貿易大学（中国）	-	-	-	-	-	-	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	オークランド工科大学ビジネススクール（ニュージーランド）	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	タマサート大学ビジネススクール（タイ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	ストックホルム大学ビジネススクール（スウェーデン）	-	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	5
	ストラスブール大学EMストラスブールビジネススクール（フランス）	-	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	2	1	0	0	0	0	7
	ブレーメン州立経済工科大学（ドイツ）	-	0	0	0	0	2	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	2	8
	アーヘン応用科学大学（ドイツ）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	4	2	0	0	0	0	8
	アルカラ大学（スペイン）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0
	フレージャー・ヴァレー大学（カナダ）	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
小計	0	4	6	0	2	4	1	0	3	2	5	5	6	5	0	0	0	2	45	
BSAⅤ	大連外国語大学（中国）	-	3	2	2	1	3	4	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	16
	対外経済貿易大学（中国1年）	-	-	-	-	-	-	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
	対外経済貿易大学（中国1.5年）	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1	0	1	0	1	0	0	0	0	6
	オークランド工科大学ビジネススクール（ニュージーランド）	-	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	タマサート大学ビジネススクール（タイ）	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ストックホルム大学ビジネススクール（スウェーデン）	-	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	4
	ストラスブール大学EMストラスブールビジネススクール（フランス）	-	0	3	1	3	0	0	5	0	5	4	0	4	1	0	0	0	0	26
	ブレーメン州立経済工科大学（ドイツ）	-	0	0	0	2	0	0	3	0	2	3	2	0	1	0	0	0	0	13
	アーヘン応用科学大学（ドイツ）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	2	0	0	0	0	5
	アルカラ大学（スペイン）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0
	レディング大学（イギリス・派遣型）	-	2	10	5	3	2	2	0	2	3	2	1	3	0	0	0	0	0	35
	シンガポール国立大学（シンガポール）	-	1	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	エセムビジネススクール（フランス）	-	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	-	-	-	-	4
小計	0	7	15	10	11	5	9	9	3	12	10	6	12	6	0	3	0	2	115	
合計	51	72	102	47	61	67	65	69	46	41	43	41	62	40	0	3	0	2	812	
															3		2			

※2022年3月時点ですでに終了しているプログラムをグレーで表示しています。

〈参考〉全学募集留学プログラムへの経営学部派遣実績

※詳細については、国際教育センター発行「海外留学の手引き」2022年度版を参照してください。

2021年度

	プログラム名	派遣者数計		経営学部	
		現地渡航	オンライン	現地渡航	オンライン
Global Fieldwork Project	ホーチミン市人文社会科学大学	0	0	0	0
	ハノイ貿易大学	0	0	0	0
	マレーシア科学大学	0	0	0	0
	バンジャサ大学	0	0	0	0
	チュラロンコン大学	0	0	0	0
	ガジャマダ大学	0	0	0	0
立命館・昭和ポストン「文化・社会調査」プログラム		0	0	0	0
異文化理解セミナー	アラバマ大学	0	0	0	0
	サイモンフレーザー大学	0	0	0	0
	クイーンズ大学	0	0	0	0
	ニー・アン・ポリテクニク	0	0	0	0
	フットンガム大学	0	0	0	0
	イリノイカレッジ	0	0	0	0
	ボストン大学	0	0	0	0
	ニューヨーク大学	0	0	0	0
	トロント大学	0	0	0	0
	ウォーリック大学	0	0	0	0
	メルボルン大学	0	0	0	0
ヴィクトリア大学ウェリントン	0	0	0	0	
現地で学ぶ初修語セミナー	国立台湾師範大学	0	0	0	0
	北京大学	0	0	0	0
	高麗大学	0	0	0	0
	トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校	0	0	0	0
	ライプツィヒ大学	0	0	0	0
	アルカラ大学	0	0	0	0
Advanced Global Fieldwork Project	マレーシア科学大学	0	0	0	0
	チェンマイ大学	0	0	0	0
	チュラロンコン大学	0	0	0	0
	ペース大学	0	0	0	0
	マレーシア工科大学	0	0	0	0
	ラトガーズ大学	0	0	0	0
	ASEAN Community Leadership Seminar (慶熙大学校/淡江大学)	0	0	0	0
	立命館・マコーリー大学「日豪関係」プログラム	0	0	0	0
	立命館×UC Davis Global Online Study ~アメリカで学ぶSDGsとAcademic English~	-	45	-	5
	立命館×ヨーク大学 Global Online Study	-	15	-	2
	立命館×マレーシア工科大学 Global Online Study	-	15	-	3
立命館×高麗大学 Global Online Study	-	17	-	1	
立命館×ライプツィヒ大学 Global Online Study	-	13	-	1	
立命館×アルカラ大学 Global Online Study	-	5	-	2	
立命館×昭和女子大学ポストン校 Global Online Study	-	16	-	0	
立命館×国立台湾師範大学 Global Online Study	-	17	-	0	
立命館・マラ工科大学「東南アジアで学ぶ多文化共生とダイバーシティ」プログラム	0	0	0	0	
立命館・ヨーク大学「イギリスで学ぶクリエイティブ」プログラム	0	0	0	0	
立命館・ワシントン大学「持続可能な社会とイノベーション」プログラム	0	0	0	0	
立命館・カリフォルニア大学デービス校「アメリカの言語・文化・社会」プログラム	0	0	0	0	
立命館・カリフォルニア大学デービス校「アメリカの言語・文化・社会」プログラム	0	0	0	0	
立命館・UBCアカデミック・イマージョン・プログラム	0	15	0	2	
UBC2年目派遣プログラム(サマーセッションのみ)	0	0	0	0	
ASEANで学ぶ国際PBLプログラム	0	1	0	0	
立命館・アルバータ大学「北米の言語・文化・社会」プログラム	0	0	0	0	
交換留学	春出発 (英語)	0	1	0	0
	夏出発 (英語)	0	14	0	1
学部共同学位プログラム(DUDP) 2回生派遣	アメリカン大学	1	0	1	0
	サフォーク大学	0	0	0	0
国際教育センタープログラム実施分 合計		1	175	1	17

2019年度

	プログラム名	派遣者数計		経営学部	
		現地渡航	オンライン	現地渡航	オンライン
Global Fieldwork Project	ホーチミン市人文社会科学大学	39		3	
	ハノイ貿易大学	29		2	
	マレーシア科学大学	38		4	
	バンジャサ大学	29		1	
	チュラロンコン大学	30		5	
立命館・昭和ポストン「文化・社会調査」		12		0	
異文化理解セミナー	サイモンフレーザー大学	30		1	
	クイーンズ大学	19		1	
	フットンガム大学	14		2	
	国立台湾師範大学	3		1	
	イリノイカレッジ	21		2	
	ボストン大学	15		0	
	ニューヨーク大学	34		1	
	トロント大学	29		1	
	ウォーリック大学	33		3	
	ヴィクトリア大学ウェリントン	22		4	
	高麗大学	25		7	
トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校	22		0		
ライプツィヒ大学	19		1		
アルカラ大学	28		5		
モンテレイ工科大学	13		1		
ペース大学	10		0		
マレーシア工科大学	13		0		
ラトガーズ大学	13		1		
Asian Community Leadership Seminar (慶熙大学校/淡江大学)		2		1	
立命館・マコーリー大学「日豪関係」プログラム		18		1	
立命館・マラ工科大学「東南アジアで学ぶ多文化共生とダイバーシティ」プログラム		25		2	
立命館・ヨーク大学「イギリスで学ぶクリエイティブ」プログラム		40		7	
立命館・ワシントン大学「持続可能な社会とイノベーション」プログラム		32		9	
立命館・カリフォルニア大学デービス校「アメリカの言語・文化・社会」プログラム		34		8	
UBCアカデミック・イマージョン・プログラム		72		7	
UBC2年目派遣プログラム(サマーセッションのみ)		6		0	
ASEANで学ぶ国際PBLプログラム		12		4	
立命館・アルバータ大学「北米の言語・文化・社会」プログラム		4		2	
交換留学	春出発 (英語)	10		2	
	夏出発 (英語)	21		1	
学部共同学位プログラム(DUDP) 2回生派遣	アメリカン大学	73		14	
	サフォーク大学	31		3	
国際教育センター実施分合計		950		110	

2018年度

	プログラム名	派遣者数計		経営学部	
		現地渡航	オンライン	現地渡航	オンライン
Global Fieldwork Project	バンジャサ大学	19		0	
	ホーチミン市人文社会科学大学	55		6	
	マレーシア科学大学	29		3	
異文化理解セミナー	アルカラ大学	26		5	
	イリノイカレッジ	20		1	
	ウォーリック大学	25		5	
	オカナガンカレッジ	30		0	
	サイモンフレーザー大学	45		5	
	トゥールーズ大学ジャン・ジョレス校	17		4	
	ニー・アン・ポリテクニク	19		0	
	ニューヨーク大学	26		2	
	フットンガム大学	19		1	
	ボストン大学	28		1	
	メルボルン大学	30		2	
モンテレイ工科大学	10		1		
ライプツィヒ大学	24		2		
高麗大学	30		4		
台湾師範大学	7		0		
南開大学	24		3		
北京大学	20		3		
ペース大学	19		1		
ラトガーズ大学	14		4		
立命館・カリフォルニア大学デービス校「アメリカの言語・文化・社会」プログラム(春派遣)		34		8	
立命館・カリフォルニア大学デービス校「アメリカの言語・文化・社会」プログラム(夏派遣)		40		9	
立命館・マコーリー大学「日豪関係」プログラム		24		3	
立命館・マラ工科大学「東南アジアで学ぶ多文化共生とダイバーシティ」プログラム		16		5	
立命館・ヨーク大学「イギリスで学ぶクリエイティブ」プログラム		32		4	
立命館・ワシントン大学「持続可能な社会とイノベーション」プログラム		68		18	
立命館・昭和ポストン「文化・社会調査」プログラム		15		0	
Asian Community Leadership Seminar (慶熙大学校/淡江大学)		4		1	
ASEANで学ぶ国際PBLプログラム		12		6	
UBCアカデミック・イマージョン・プログラム		75		19	
UBC2年目派遣プログラム(サマーセッションのみ)		2		0	
UBC2年目派遣プログラム(サマー+1 Semester)		2		0	
立命館・アルバータ大学「北米の言語・文化・社会」プログラム		15		2	
交換留学	春出発 (英語)	13		4	
	夏出発 (英語)	17		3	
学部共同学位プログラム(DUDP) 2回生派遣	アメリカン大学との学部共同学位プログラム	92		5	
	アルバータ大学との学部共同学位プログラム	30		5	
国際教育センター実施分合計		1033		145	

(1) 外国語の学習について

留学にあたっては、一定の語学力が必要になるケースがほとんどです。例えば、交換留学の場合、英語圏については出願時にほとんどの大学でTOEFL iBT®テスト（正規スコア）やIELTSのスコアが必要になります。また、初修外国語圏であれば、その国の言語を出来るだけ学習しておくことが重要になります。計画的な外国語学習に努めましょう。

【TOEFL®テストについて】

TOEFL®テスト（Test of English as a Foreign Language）は、おもに英語圏の大学・大学院が、英語を母国語としない学生の入学要件として課している英語のテストです。そのスコアは、立命館大学が実施している長期の留学プログラムはもちろん、短期プログラムの選考などにおいても利用されます。

■TOEFL iBT®テスト

公的なTOEFL®テストスコア（正規スコア）とは、このTOEFL iBT®テストで取得したスコアを指します。年間30～40回、主に土曜日と日曜日に試験が行われており、会場はおもに大学などの教育機関のコンピューター教室になります。なお、立命館大学は試験会場にはなっていません。受験申込もオンラインで行います。

▶問い合わせ先

TOEFL®テスト日本事務局 ETS Japan 合同会社
<https://www.toefl-ibt.jp>

■TOEFL ITP®テスト

TOEFL®テストの団体受験プログラムであるTOEFL ITP®テストは、過去のペーパー版TOEFL®テスト（TOEFL® PBTテスト）で出題されたものを再利用しています。スコアは公的なものではありませんがTOEFL iBT®テストのスコアと高い相関関係があります。留学を意識している人は、まず、このTOEFL ITP®テストを受験してみましょう。TOEFL ITP®テストは立命館大学で受験することができ、年に数回実施されています。具体的な日程については、下記HPで確認してください。

▶問い合わせ先

立命館大学言語教育センター
<http://www.ritsumei.ac.jp/gengo/gaikokugo-gakusyu/dantai.html/>



【IELTSについて】

IELTS（International English Language Testing System）とは、主にイギリス、オセアニア、カナダなどの高等教育機関への留学の際にスコア提出を求められる英語力判定テストです。ヨーロッパ、アメリカでもTOEFL®テストに代わりIELTSを採用する教育機関が増えています。派遣先大学によって、交換留学の選考においても利用されることがあります。

テストはリスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4つのセクションで構成されています。テスト結果は各セクションごとに1から9までのバンドスコアで評価される他に、総合的にオーバーオール・バンドスコアが評価されます。

▶実施団体の一例

公益財団法人 日本英語検定協会 公式HP
<https://www.eiken.or.jp/ielts/>

なお、イギリスのビザ取得のためには通常のIELTSではなく、IELTS for UKVIの受験が必須です。テストの内容、難易度、採点基準等は通常のIELTSと同じですが、成績証明書にビザ申請用のIELTSを受験した旨、記載されます。イギリスに留学を考えている方はIELTSではなく、IELTS for UKVIを受験してください。

▶問い合わせ先

ブリティッシュ・カウンシル 公式HP
<https://www.britishcouncil.jp/exam/ielts-uk-visa-immigration>

【TOEIC®L&Rテストについて】

TOEIC®L&Rテスト（Test of English for International Communication）とは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。世界約60カ国で実施されており、可否ではなく10点から990点までのスコアで評価されます。公的なTOEIC®L&Rテストスコアを取得するためのテストは、一般的に「公開テスト」と呼ばれており、年に10回程度実施されています。

▶問い合わせ先

一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会（IIBC）
<https://www.iibc-global.org>

【初修外国語検定試験】

初修外国語の語学力を測るものとして、様々な検定試験があります。交換留学の応募には各検定試験3級程度の語学力が最低限必要であり、派遣先大学で正規科目を履修するにはより高い語学水準が求められます。初修外国語圏への交換留学を考えている場合には、国際基準の検定を受験することも検討し、語学力向上に努めて下さい。試験の実施回数は限られているため、事前に必要な情報を入手して準備してください。

※各試験は形式や目的がそれぞれ違います。したがって下表はあくまで参考値であり、自動的に換算されるものではありません。

【英語検定試験 難易度比較換算目安表】

TOEIC®L&Rテスト	TOEFL ITP®テスト	TOEFL iBT®テスト	IELTS™テスト	Cambridge	CEFR
900-990+	670+	120	8.5-9.0	CPE (C2 Proficiency)	C2
			8.0		
	600	95	7.0	CAE (C1 Advanced)	C1
890			6.5		
785	550	72	5.5-6.0	FCE (B2 First)	B2
590-600	500	61	5.0		
550	460	42	4.0-4.5	PET (B1 Preliminary)	B1
300-310	400	32			
220			3.0	KET (A2 Key)	A2
120			2.0		A1

CEFR=Common European Framework of Reference for Languages

(CEFRはヨーロッパ言語共通参照枠としてヨーロッパ全体で外国語の学習者の習得レベルを示す際に用いられるガイドラインです。)

【中国語検定試験 難易度比較換算目安表】

中検*1	新HSK*2	試験の程度
1級	6級 (5,000語以上)	中国語の情報をスムーズに読んだり聞いたりすることができ、会話や文章により、自分の見解を流暢に表現することができる。 5,000語以上の常用中国語単語
準1級		
2級	5級 (2,500語)	中国語の新聞・雑誌を読んだり、中国語のテレビや映画と鑑賞することができ、中国語を用いて比較的整ったスピーチを行うことができる。 2,500語程度の常用中国語単語
3級 (1,000~2,000語)		
4級 (500~1,000語)	4級 (1,200語)	中国語を用いて広範囲の話題について会話ができ、中国語を母国語とする相手と比較的流暢にコミュニケーションをとることができる。 1,200語程度の常用中国語単語
準4級	3級 (600語)	生活・学習・仕事などの場面で基本的なコミュニケーションをとる事ができ、中国旅行の際にも大部分のことに対応できる。 600語程度の基礎常用中国語及びそれに相応する文法知識

*1 中国語検定試験 *2 漢語水平考試

※「一般財団法人日本中国語検定協会」「中国政府公認の中国語資格HSK」のホームページより転載

[中検] <http://www.chuken.gr.jp>

[新HSK] <http://www.hskj.jp/>

(2) 外国語検定試験受験料補助制度・外国語講座受講料補助制度

立命館大学では、学生の自主的・積極的な外国語学習を支援するため、英語検定試験、初修外国語検定試験の受験を推奨しており、受験料を補助する制度を設けています。海外留学を目指す場合はもちろん、進路・就職活動にも有用なものですので、積極的に受験しましょう。

【制度の目的】

■学習目標の設定ができる！

高いスコアを目指して外国語学習に取り組むことは、学習の到着目標の設定となり、自分で学習成果の確認が出来るので、励みになります。

■外国語の力を試すことができる！

現在の自分の外国語の運用レベルを知ることが出来ます。

■立命館大学の留学プログラムに応募できる！

TOEFL ITP[®]テストで出願可能なプログラムもありますが、一部のプログラムへの申し込みには、TOEFL[®]テストの正規スコア（TOEFL iBT[®]テスト）やIELTSのスコアが必要です。

【経営学部 英語検定試験受験料補助制度】

経営学部では、外国語学習及び海外留学を支援するために、英語検定試験受験料補助制度を設けています。

対象学生：経営学部1回生～4回生

対象試験：①TOEFL iBT[®]テスト ②IELTS ③IELTS for UKVI

補助金額：15,000円（上限）

補助回数：1年（学年度）1回限り（ただし3月の試験は対象外）

応募資格：経営学部生で国際教育センターまたは経営学部が実施する留学・海外実習への応募を計画していること。加えて、直近セメスターのGPAが2.75以上であること。

※制度に関する案内は、manaba+R > 「経営学部生のページ」 > 「学費・奨学金・補助金・経営学会」 > 「英語検定受験料補助」より確認してください。

【経営学部校友会 外国語講座受講料補助制度】

経営学部では、経営学部校友会からの補助により、外国語学習及び海外留学を支援するために、外国語講座受講料補助制度を設けています。

対象学生：経営学部生1回生～4回生

対象講座：言語習得センター（CLA）と孔子学院の補助対象の外国語講座（TOEIC[®]L&Rテスト対策講座を除く）。

補助金額：国際経営学科生は25,000円（上限）経営学科生は15,000円（上限）

補助回数：在学中に1回（各講座につき1回限り）

応募資格：経営学部生のうち①平素の学業成績が優秀で、②学習した外国語を活かす計画があり、③各種外国語講座で意欲的に学習した方（講座の欠席回数が2回以内であること）。加えて、④直近セメスターのGPAが2.75以上であること。

※制度に関する案内は、manaba+R > 「経営学部生のページ」 > 「学費・奨学金・補助金・経営学会」 > 「外国語講座受講料補助」より確認してください。

(3) パスポート及びビザ申請

【パスポート（旅券）】

パスポートは出国、帰国の際、または外国に入国・滞在する際に必要で、所持しない場合は、各都道府県の旅券事務所で交付の申請手続きをしなければなりません。留学する際に必要なビザの申請時や入国審査時に、パスポートの有効期限が一定期間以上残っていることを求められる国もありますので、すでに所持している場合でも有効期間が十分に残っているかを確認しておくことが必要です。

また、留学先滞在中にパスポートの有効期限が切れる場合には必要書類を揃え、現地の日本大使館または領事館で有効期限終了前に、切り替え申請を行う必要があります。

【ビザ（査証）】

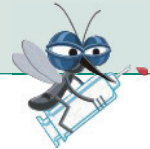
ビザ（査証）とは、政府ないしそれに相当する公的機関が、入国しようとする外国人の入国および滞在が差し支えないことの判断を示し、その許可を証した書類のことを言います。ただし、ほとんどの国では、入国の最終的な決定権はその国の入国審査官にあるので、ビザはあくまでも入国の推薦状であり、入国を保証するものではありません。

ビザの要・不要、申請のための必要書類、発行までに要する時間、申請手数料などは国によって様々で、その規程は予告無く変更されることがあります。申請に当たっては、必ず留学先国の大使館または領事館などに直接問い合わせ、最新情報を得た上で、手続きをしてください。発行までに長い時間を要する場合があります。

※留学プログラムによっては、一括ビザで申請を行う場合があります。

※米国入国に際してのESTA（Electronic System for Travel Authorization）等、ビザ以外の事前手続きが必要な国・地域もあります。これについても留学プログラムによっては、一括で申請を行う場合があります。

(4) 海外での安全・危機管理および健康管理



【渡航前に治安状況を調べる】

留学先を決める段階から、各国の治安情報については、各自確認しておく必要があります。

1) 外務省「海外安全ホームページ」を確認する。

外務省領事サービスセンターの「海外安全ホームページ」で、海外へ渡航する日本人が、現地で事件や事故に巻き込まれないための情報を提供しています。国・地域別に、「危険情報」「スポット情報」「広域情報」にわけて、犯罪・事件・テロについての情報や、渡航・滞在における注意事項を発信しています。また、「安全対策基礎データ」には、その国の犯罪事情や習慣、ビザ・出入国審査、滞在時の留意事項、緊急連絡先などがまとめられていますので、事前に渡航先の情報を必ず確認しておいてください。

▶外務省海外安全ホームページ

<http://www.anzen.mofa.go.jp>

2) 留学先国の公的機関の情報を確認する。

地域の犯罪件数など、ホームページで公表している国もありますので、留学先の警察庁などのサイトを事前に確認しておいてください。

3) 現地の日本大使館・領事館の情報を確認する。

国や地域によっては、現地の日本大使館・領事館のホームページで治安情報を発信している場合があります。

4) 現地で生活した経験のある人から情報を得る。

過年度留学経験者や本学で学んでいる留学生から、現地の生の情報を得ておくことも大切です。近づいてはいけない地域や外出しては危険な時間帯など、より具体的に情報を収集しておきましょう。

【留学中の健康管理と危機管理】

立命館大学では、海外留学派遣が決定した学生を対象として、健康管理ガイダンスおよび危機管理ガイダンスを実施しています。留学中に注意しなければならない事柄や、緊急事態の対処方法など、保健センター医師および専門家により説明がありますので、必ず出席してください。

■現地到着後の所在登録について

日本国籍を有する方は、必ず以下の外務省の「渡航登録サービス」にご自身の情報を登録しましょう。

▶【3ヶ月未満の渡航：外務省海外旅行登録「たびレジ」ホームページ】

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

▶【3ヶ月以上の渡航：外務省在留届電子届出システム「ORRnet」ホームページ】

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/RRnet/index.html>

(5) 海外旅行保険・旅行事故対策費用保険

【海外旅行保険】

立命館大学の海外留学プログラムで留学する学生は、本学が指定する保険会社と包括契約をする海外旅行保険に加入することが義務付けられています。留学先によっては、この保険に加入していても現地での健康保険や医療保険への加入が義務付けられることがあります。その場合は派遣先機関の指示に従って保険に加入する必要があります。

【旅行事故対策費用保険】

海外留学プログラムで留学する参加者が留学中に事故、病気等になり、事故対応費用や救援者費用の支出を余儀なくされた場合に補償する保険です。大学で一括して加入手続きを行いますので、留学プログラム参加者個人が加入手続きを行う必要はありません。

【連絡先について】

海外旅行保険・旅行事故対策費用保険の詳細については、以下まで問い合わせてください。

- ▶ 取り扱い代理店／株式会社クレオヒューマン保険旅行事業部
- TEL：075-463-9178 E-mail：travel-r@creotech.co.jp

(6) 留学中に本学で発生する重要な手続き

留学中であっても重要な手続きが発生する場合があります。必要な手続きは回生などによって異なります。以下に主な手続きについて記載しています。自身が該当すると思われる事項については、必ず留学前に経営学部事務室に確認を取っておいてください。

その他必要な情報については、manaba+Rや学内メールで配信される場合があります。留学中も情報のチェックは怠らないようにしてください。

【留学中に発生する重要な手続き(例)】

受講登録

ゼミ募集

学籍異動

(7) 帰国後の手続き

プログラムによっては事後レポート・報告書・体験記の提出が求められる場合があります。所定の講義・ガイダンス等が設定されている場合は、必ず参加してください。

学籍が「留学」になるプログラムについては、帰国後にOIC学びステーションへ「留学終了届」を速やかに提出してください。提出に際しては、他に必要な手続きがないか窓口で必ず確認して下さい。なお、「留学終了届」を提出しなければ、留学を終了し、帰国していることを経営学部で確認することができません。学籍を「在学」とする手続きが行えず、立命館大学での講義を受講できません。

派遣先大学開講科目を受講して単位修得し、本学での単位認定を希望する場合は「単位認定案申請書」、履修期間および成績が明記されている単位修得証明書、シラバス（和訳も必要）等を速やかにOIC学びステーションへ提出してください。本人による帰国後の単位認定申請を受けて、所定の基準に基づいて経営学部教授会において審議し、承認されれば、本学の科目として単位認定します。



BSA

立命館大学 経営学部事務室

〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町2-150
Tel : 072-665-2090

BSA ホームページ <https://ritsumeib-a-gblp.jp/>



※TOEIC®、TOEFL®は Educational Testing Service (ETS) の登録商標です。
※TOEIC®L&RテストのL&Rは LISTENING AND READINGの略称です。